

三次中学校区

キャリア教育実践の手引き

～コミュニティ・スクールを生かして～



三次中学校区は、河内小学校・三次小学校・三次中学校の2小1中で構成されています。本校区では、「地域になくってはならぬ学校づくり」と「持続可能な地域の担い手づくり」に取り組んでおり、特に、令和4年度よりコミュニティ・スクールを導入し、学校、地域、保護者、関係機関等が連携・協働して子どもたちを支援し、共にまちづくりを進める活動を展開しています。

「キャリア教育をどのように進めていけばいいのだろう…。」最初、三次中学校区でもそう感じながら、スタートしました。それまでは、様々な取組が学年会を中心とした「個」の取組が主でしたが、コミュニティ・スクールやその前身である地域支援懇話会に学校の様々な取組の計画や事前準備の段階から「参画」してもらうことで教育の質の向上、持続可能な取組へと高まっていっていると感じています。

この手引きでは、キャリア教育の取組に対して誰もが悩んでしまいやすいものを問い(Q)にした構成としています。問いに対する答えは様々だと思いますが、三次中学校区ではどのように取組を進めていったのか、留意点等を「ポイント」として記載しています。

この手引きが、本校区の一層の発展はもちろんのこと、この手引きを読まれている各校の皆様にとっても参考となるものであれば幸いです。

目次

| | | |
|-----|------------------------------|--------------|
| 1 | 中学校区として系統的に育成を目指す資質・能力について | |
| (1) | 三次中学校生徒の実態把握 | ・・・3 |
| (2) | 三次中学校区の児童生徒への思いを共有するための懇話会 | ・・・4 |
| (3) | 三次中学校区の児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の設定 | ・・・5 |
| (4) | 資質・能力の共有 | ・・・6 |
| 2 | コミュニティ・スクールを活用したキャリア教育について | |
| (1) | コミュニティ・スクールとの連携 | ・・・・・・・・・・9 |
| (2) | 三次中学校区オリジナルカリキュラム | ・・・・・・・・・・12 |
| (3) | 出前授業 | ・・・・・・・・・・22 |
| (4) | 職場体験活動(中学校2学年) | ・・・・・・・・・・27 |
| (5) | 職場体験前の就職採用試験模擬面接(中学校2学年) | ・・・・・・・・・・30 |
| (6) | 外部人材を活用した面接体験(中学校3学年) | ・・・・・・・・・・31 |
| (7) | 児童生徒のPDCAサイクル | ・・・・・・・・・・33 |
| 3 | 成果と課題について | ・・・・・・・・・・37 |

1 中学校区として系統的に育成を目指す資質・能力について

Q 「資質・能力」をどのように設定すればよいだろう。

(1) 三次中学校生徒の実態把握

ポイント

児童生徒の実態把握をするために、各校において全国学力学習状況調査や広島県「基礎・基本」定着状況調査などの各種学力調査や校内アンケートの分析など、今あるものから活用する。

まず、三次中学校では、コミュニティ・スクール導入前に、「総合質問紙調査(i-check)」を中心に生徒の実態を把握しました。特に、肯定的回答が高い結果となったのは、次の3つの項目です。

三次中学校での生徒実態把握（R2年度総合質問紙調査（i-check））

| 項目 | 6月 | 2月 | 増減 |
|---|-------|-------|-------|
| 自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。 | 90.0% | 92.3% | +2.3 |
| 学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているのだな、友だちからたよりにされているのだな、と感じることはありますか。 | 48.4% | 58.9% | +10.5 |
| あなたは、ものごとを行うとき、次に何をすべきかを自分なりに判断して行動していますか。 | 86.2% | 87.7% | +1.5 |

一方で、特に肯定的回答が低い結果であったのは、次の3つの項目です。

| 項目 | 6月 | 2月 | 増減 |
|--|-------|-------|------|
| 夢中になった、勉強が面白いと思った、やる気が出たという記憶に残っている授業がありますか。 | 71.6% | 66.7% | -4.9 |
| クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。 | 64.4% | 59.7% | -4.7 |
| クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できるように考えて提案していますか。 | 51.8% | 49.3% | -2.5 |



総合質問紙調査 (i-check), 全国学力学習状況調査質問紙, 広島県「基礎・基本」定着状況調査質問紙等の各種調査結果だけでなく, 三次中学校区の教職員でも目指す生徒像について話し合いました。各小中学校の先生方に「生徒が社会に出るときに身に付けさせておくべき力」「中学校卒業時に目指す生徒の姿」についてのアンケートを行いました。

「生徒が社会に出るときに身に付けさせておくべき力」

- 適切な距離感で周りの人とコミュニケーションをとること。
- 自分からSOSを出すこと。
- 人を大切にす思いやりの心をもって行動すること。
- 良好な人間関係を築き, 協働的に取り組むこと。 等



中学校卒業時に目指す生徒の姿」

- 自律できる生徒
- 人のために行動することができる生徒
- 自分や周りの人の良いところを認め、高め合うことのできる生徒
- 相手の気持ちを考え、よりよい人間関係を築くコミュニケーション能力
- 自分の人生について、上手くいかないことがあっても諦めずに切り拓き、生きていく力 等



(2) 三次中学校区の児童生徒への思いを共有するための懇話会

「資質・能力」の設定の際は、地域の願いなども重要な視点です。本校区では、コミュニティ・スクール導入以前から、学校運営協議会の前身である「みよし学園地域支援懇話会（令和4年度から現在の学校運営協議会に移行）」が立ち上げられています。35名もの方が参加された会の中で、「1 どんな力を身に付けさせたいか」「2 どんな取組があればよいか」「3 それぞれの立場でどんなことができそうか」についてグループで話し合いました。地域の方からは、「チャレンジできる子や自分で考え行動できる子になってほしい」「人のために行動する心と力をもってほしい」「地域に対する誇りをもってほしい」などの願いや思いを聴くことができ、目指す生徒の具体的な姿を共有することができました。

三次中学校区の子どもたちに身に付けさせたい力」

- チャレンジできる
- 自分の意見を主張できる
- 自分で考え行動することができる
- あいさつ, コミュニケーション
- 人のために行動する心と力
- 地域に対する誇り, 「ふるさと三次」を根っこにもっておくこと 等

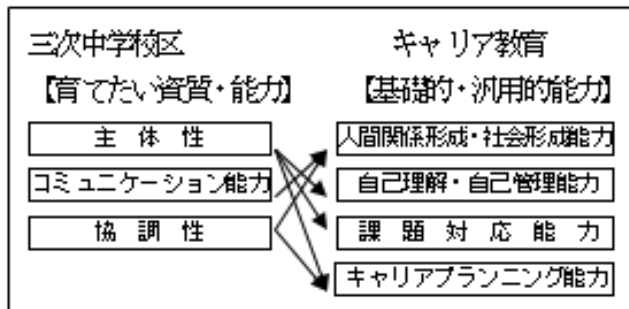


これらの結果を踏まえて、主体的に学ぼうとする力, 協働的に課題を解決する力を育成する必要があることが分かりました。

(3) 三次中学校区の児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の設定

中学校教職員（先生方の意見を集約するために、アンケートを実施（別紙1））・小学校教職員・地域の方々の思いを最終的に分類し、表にまとめて整理しました。そして、身に付けさせたい資質・能力を「①自らの目標を持ち、自分から行動し、課題解決する力」「②自分の考えを、論理的に説明する力」「③他者と協働して課題解決する力」の3つに設定しました。

さらに、その3つの資質・能力をキャリア教育の基礎的・汎用的能力と照らし合わせ、三次中学校区の育てたい資質・能力を「①主体性」「②コミュニケーション能力」「③協調性」に決定しました。



別紙

キャリア教育担当：平本

アンケートのお願い

三次中学校区で、生徒実態をもとに、めざす生徒像を具体化し、その実現に向けて取組を進めていきたいと思っております。おいそがしいと思っておりますが、次の質問についてお答えください。

1 今の三次中学校の生徒を思い浮かべてください。（特定の生徒でもOKです。）20歳になったときに、この生徒の何が心配ですか？
（「2年のあの子を見ていると・・・」のような書き方でもOKです。）
※複数回答も歓迎です。

2 そのような生徒（実態）から、中学校卒業時につけておくべき力を書いてください。
（「卒業時に〇〇できる生徒」や「こんな姿になっていると良い」と思われることを書いてください。）
※複数回答も歓迎です。

教頭先生机前の袋に入れてください。
〆切を6月23日（水）とします。
ありがとうございました。

(4) 資質・能力の共有

Q 校区で共通した資質・能力を設定したら、それを日々の中で使うためにはどうすればよいのだろうか。

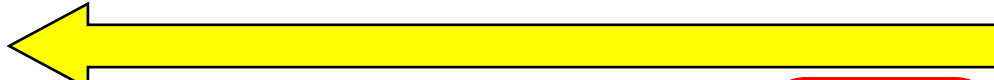
ポイント

- ・9年間で育成していく児童生徒の姿が見取れる「資質・能力系統表」を作成する。
- ・「資質・能力系統表」をもとに、児童生徒の具体的な姿を共有するループリック表を作成する。

資質・能力の設定により、中学校卒業時の生徒の目指す姿が見えてきました。その後、教師だけでなく、児童生徒も共にも共にわかりやすい、評価しやすいものにしていくことが大切です。そのためには、次の2点が重要です。

①資質・能力に係る系統表作成について

資質・能力の設定後は、小中9年間で育成していく「資質・能力に係る系統表」を作成します。まずは中学3年生のゴールの姿から作成し、「中3→中2→中1→小6…」とすると、次の学年や前の学年の資質・能力を踏まえて、各発達段階でどのような資質能力を身に付けていくのかが見えやすくなります。



| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 中学校第1学年 | 中学校第2学年 中学校第3学年 |
|-------------|---|---|---|---|
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えを、進んで友達^{※1}に伝えることができる。 ○友達^{※1}の考えを聞いて、自分の考えとの違いに気づくことができる。 ○課題解決には、話し合うことが必要であることがわかる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持ち、自分と友達^{※1}の思いや考えの違いを認識できる。 ○自分の思いや考えを、分かりやすく伝えることができる。 ○自分の考えと比較しながら友達^{※1}の考えを聞くことができる。 ○課題解決には、話し合うことが必要であることがわかる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを持ち、自分と他者^{※2}の思いや考えを比較検討しながら聞くことができる。 ○根拠をもとに筋道を立てて伝えることができる。 ○自分の考えと他者^{※2}の考えを論理的に比較検討することで考えを深めることができる。 ○他者と論議することで考えが発展することのよさがわかる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○根拠を明確にしながら自分の考えを持ち、他者^{※2}の思いや考えを理解することができる。 ○言葉で伝えることを通じて、互いを認め、尊重し合うことができる。 ○課題に対する視点を明確に持つことができる。 ○他者^{※2}の考えを活用することができる。 ○根拠や合理性などを問う意識や論議することの価値がわかる。 |
| 協調性 | <ul style="list-style-type: none"> ○一人では解決が難しい課題に対して、友達^{※1}と協力して取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○一人では解決が難しい課題に対して、友達^{※1}とともに解決方法を考えることができる。 ○一緒に取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○一人では解決が難しい課題に対して、他者^{※2}とともによりよい解決方法を考えることができる。 ○協働して取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○一人では解決が難しい課題に対して、自ら積極的に他者^{※2}と関わり、ともによりよい解決方法を導くことができる。 ○解決に向けて協働して取り組むことができる。 |
| 主体性 | <ul style="list-style-type: none"> ○日々の生活の中で、自分が取り組むべき課題が分かる。 ○物事に進んで取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○日々の生活の中で、自己の課題に対して、自ら目標を設定することができる。 ○自らの判断で行動することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○日々の生活の中で、自己や社会の課題に対して、自ら目標を設定することができる。 ○自らの判断で、よりよい取組方法を提案しながら行動することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○日々の生活の中で、自己や社会の課題に対して、自ら目標を設定することができる。 ○周囲への感謝の心を持ち、自らの判断で、自他の幸福のためによりよい取組方法を提案しながら進意をもって行動することができる。 |

系統表にすることで全教職員が共通認識をもって取り組むことができる！

<資質・能力設定の留意点>

- ・「～することができ、～することができる。」などと評価項目を1文の中に複数入れるのではなく、「～することができる。」と1文で表現する。
- ・ループリック評価は、「①小学校低学年と小学校中学年」「②小学校高学年と中学校第1学年」③「中学校第2学年と第3学年」と2学年ごとで設定している。これは、児童生徒が継続的に自己評価することができ、自らの成長を実感しやすいと考えるためである。また、中学校第1学年を同じ評価項目にすることにより、中学校への見通しをもたせる。

① ルーブリック表作成

「資質・能力系統表」をもとにルーブリック表を作成しました。これは各学校の児童生徒の実態を踏まえたものにするのが大切です。また、子どもが具体的にイメージしやすい言葉で明示することで、自己評価しやすいものになります。

～ルーブリック表の活用について（河内小学校の場合）～

年度初めに、キャリア教育についての職員研修を行い、三次中学校区で児童生徒にどのような資質・能力をつけていくのか確認する。「3つのルーブリック表」についての説明等を研究主任が行い、教職員の共通理解を図る。

- ① 年度初めの早い時期に全校朝会を行い、三次中学校区でつきたい力について、スライドを活用し、児童と共有する。中学校卒業時のゴールの姿を示し、小学生でつけておきたい資質・能力について「3つのルーブリック表」を用いながら説明し、確認しました。

※低学年（特に1年生）は、4月の段階では理解が難しいので、学校生活に慣れた時期に、担任から再度児童にわかりやすい言葉で説明し、キャリア・ログに記入。

中学年、高学年は全校朝会后、担任から説明を聞き、キャリア・ログの記入。

- ② 説明だけでは、イメージがわきにくいので、具体的にどんな姿がよいのかということ、普段の児童の学習の様子、生活の様子から見つけ、写真に撮るなどしておき、全校朝会等の場等でスライドを用いて紹介する。



学期末には、校長先生から各学年の素敵な姿を紹介していただいたことで、目指すべき姿が明確になっていきました。学校通信、学級通信でも子ども達の素敵な姿を発信することで、地域・保護者にも理解を得られ、応援していただくことにつながりました。

三次中学校区「資質・能力系統表」を河内小学校では、児童にとって分かりやすい言葉で示した。（自校の児童実態を踏まえて、三次中学校区の3つの資質・能力に加えて、「社会形成能力」も入れている。）

（左表：1～3年生用 右表：4～6年生用）

「3つの力（コミュニケーション能力・協調性・主体性）」ルーブリック

| 領域 | 質問項目 | している | どちらかといえばしている | あまりしていない | まったくしていない |
|-----------|--|------|--------------|----------|-----------|
| 基礎的・基本的な力 | ① 授業中、友だちの話をわかるように聞いている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ② 授業中、友だちがわかるように話をしようとしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 学習力 | ③ わからない問題は、友だちといっしょに答えている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ④ みんなで決めた目標を達成するために、自分のはがきががんばったらよいか答えている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 学習態度 | ⑤ 「なりたい自分」に向けて、目標を決め、いっしょけんめいがんばっている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑥ 自分で決めたことは、最後まであきらめずがんばることができている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 社会生活能力 | ⑦ むずかしいことでも、失敗をおそれず、挑戦している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑧ 自分の地いきの行事に参加している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑨ 大きくなったら「こんなことをしたい！」ということを夢っている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑩ 自分には、よいところがあると思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑪ | 4 | 3 | 2 | 1 |

「3つの力（コミュニケーション能力・協調性・主体性）」ルーブリック

| 領域 | 質問項目 | している | どちらかといえばしている | あまりしていない | まったくしていない |
|-----------|--|------|--------------|----------|-----------|
| 基礎的・基本的な力 | ① 友だちと話し合うとき、自分の考えとくらべながら、友だちの話を聞いている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ② 友だちと話し合うとき、自分の考えを言葉で伝えることができている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 学習力 | ③ 一人では解決が難しい問題を解決するために、友だちと協力している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ④ みんなで決めた目標を達成するために、自分の役割を果たそうとしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 学習態度 | ⑤ 「なりたい自分」に向けて、目標を決め、積極的に取り組んでいる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑥ 自分で決めたことは、最後まであきらめずに取り組んでいる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 社会生活能力 | ⑦ むずかしいことでも、失敗をおそれず、挑戦している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑧ 自分の地いきの行事に参加している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑨ 将来の夢や目標を持っている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑩ 自分には、よいところがあると思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

上記の表をもとに、授業で活用する「できた度表」（ルーブリック）を作成



| 時間 | 学習計画 | どこまでできた？ | できた度 | ふりかえり |
|----|-----------|---|------|-------|
| 10 | 発表の準備をしよう | 1 大きな声で練習できた。 2 友達の方を向いて、伝わりやすい声で発表練習ができた。 (声の大きさ、速さ、間を付けて) 3 友達と協力して発表練習ができた。 | | |
| 11 | 発表の準備をしよう | 1 友達からのアドバイスをもとに練習ができた。 2 友達の方を向いて、伝わりやすい声で発表練習ができた。 (声の大きさ、速さ、間を付けて) 3 友達と協力して発表練習ができた。 | | |
| 12 | 発表 | 1 発表することができた。 2 わかりやすく発表することができた。(声の大きさ、はやすさ、間など) 3 聞いている人の方を見て、わかりやすく発表することができた。 | | |
| 13 | ふりかえりをしよう | 1 目標をもって活動ができた。 2 目標に近づこう考えながら活動できた。 | | |

視覚化の工夫
 「できた度」の項目には、どれくらいできたか色を塗る。「ふりかえり」の項目では、できた度についてどうしてそのように色をぬったのか、次にしてみたいこと等を記述する。

「河内小学校ルーブリック表」より

2 コミュニティ・スクールを活用したキャリア教育について

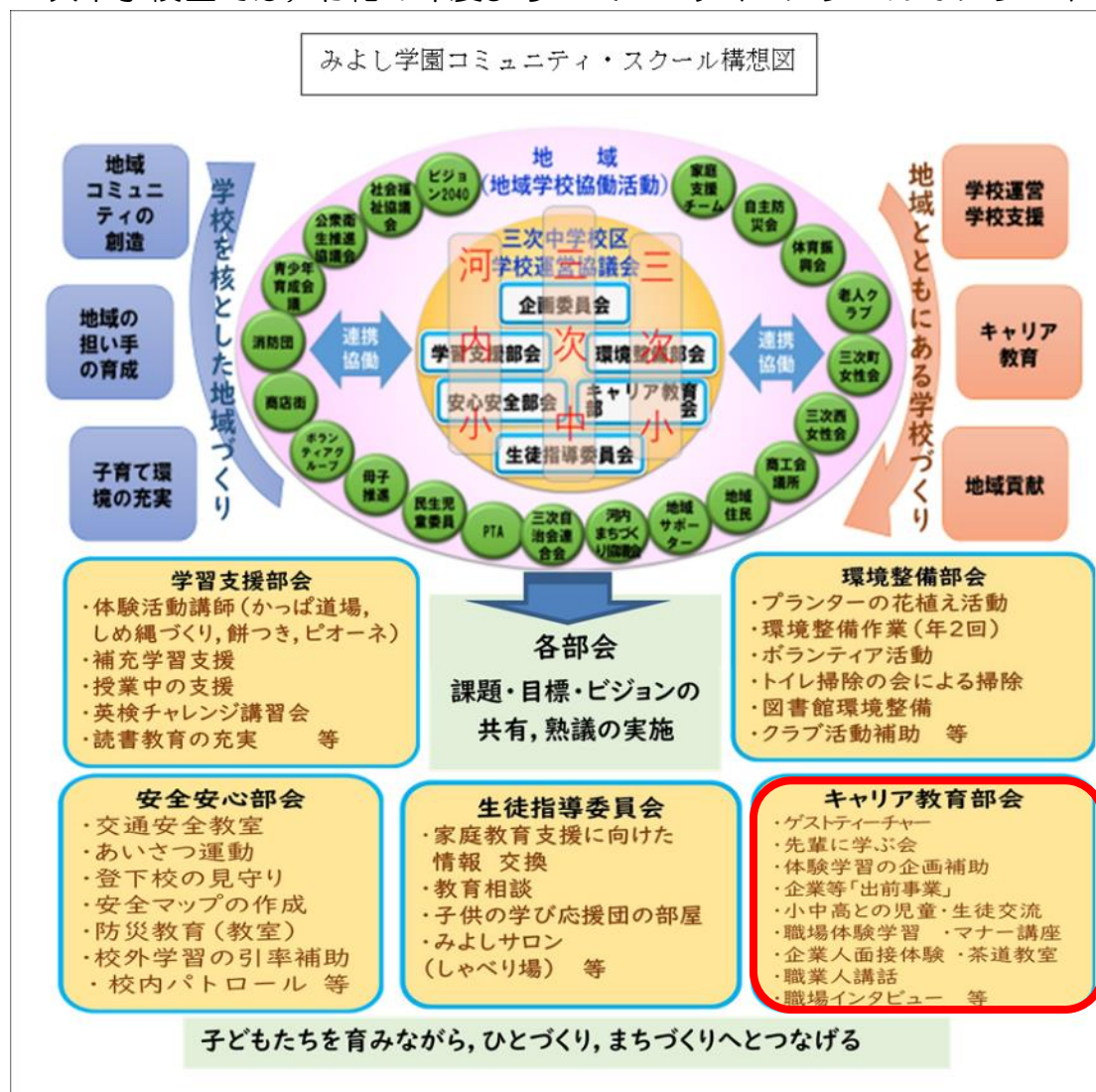
(1) コミュニティ・スクールとの連携

Q 具体的にコミュニティ・スクールとどのように連携すればよいのだろうか。

ポイント

(三次中学校区では) コミュニティ・スクールの中にある部会(キャリア教育部会)と連携。年間を見通した取組を共有するための「年間活動計画表」で進捗状況を確認する。

三次中学校区では、令和4年度よりコミュニティ・スクールがスタートしました。



この図の緑色の部分は、コミュニティ・スクールに参加いただいている各諸団体です。自治会や商店街の方など、多くの立場の人が協力してくださっています。子どもたちにどのような力をつけたいのかを共有することで、学校運営、支援、キャリア教育、地域貢献など学校教育の充実を目指しています。現在、コミュニティ・スクールの中に、5つの部会があり、その1つに「キャリア教育部会」を位置づけています。

| 部会名 | 学習支援部会 | 環境整備部会 | 安心安全部会 | キャリア教育部会（まちづくり推進） | 法指導委員会 |
|---------------|--|--------------------------------|---|--|--|
| 活動内容 | ・補充学習支援 ・授業中の支援 | ・ボランティア活動 ・学校環境整備（校内掲示物、掃除、 | ・防災教育 ・登下校の見守り | ・ゲストティーチャー（地域の歴史・文化・産業、先進に学ぶ） ・体験学習の企画補助 ・企業等「出前授業」 ・外部人材による面接体験 | 教育相談（いじめ、不登校対策等） |
| 1 | ・河内ふれあい祭り(11/3) ・祖父母学級（しめ飾りづくり 12/12） ③ 企業などとの交流学習 ・ドアゴンフアイズとの交流会（7/13） | | | ① 地域のゲストティーチャー ・町探検（6/20・21） ・米・野菜作り（通年） ・平短期の栽培（4/10～8/4） ・地域の歴史、地域講師による授業（6/20） ・ディナービュッフェへの訪問（7/3） ・オーブンスカールの開催（9/24） ・地域と協働した行事 ・合同体育祭（5/28） ・河内地区教会児童会参加（9/17） ・河内ふれあい祭り(11/3) ・祖父母学級（しめ飾りづくり 12/12） ③ 企業などとの交流学習 ・ドアゴンフアイズとの交流会（7/13） | 学校説明会（年間3回） 民生・児童委員による授業観察及び情報交換会（6/30 3月予定） 保小連携（7/4） 放課後子ども教室との情報交換会（随時） 地域サポーターによる不登校傾向児童への支援（随時） |
| 教室フィールド | ・ゲストティーチャー（地域の歴史・文化・産業、先進に学ぶ） ・野菜作り・稲・イモ植え(6/8) ・比羅山登山(5/2) ・企業等「出前授業」(6/8)(9/1) ・小中高との児童・生徒交流 ・頼吉坪学習(6/17) ・職業インタビュー(10/19) ・三次どんちゃん ・比羅山学習 ・三次どんちゃん7月～10月きんさい祭り(10/1 運動会で披露)盆踊り(8/15)ふれあいフェスタ(11/3)さくら祭り予定 ・目指す子供像の共有 教職員との懇話会 | | ・教育相談 ・家庭教育支援 ・スクールカウ る面談 ・教育相談・家 員との連携 ・自治連代表者 説明 ・民生児童委員 説明(5/16)(9/5) | ・ゲストティーチャー（地域の歴史・文化・産業、先進に学ぶ） ・野菜作り・稲・イモ植え(6/8) ・比羅山登山(5/2) ・企業等「出前授業」(6/8)(9/1) ・小中高との児童・生徒交流 ・頼吉坪学習(6/17) ・職業インタビュー(10/19) ・三次どんちゃん ・比羅山学習 ・三次どんちゃん7月～10月きんさい祭り(10/1 運動会で披露)盆踊り(8/15)ふれあいフェスタ(11/3)さくら祭り予定 ・目指す子供像の共有 教職員との懇話会 | 教育相談 家庭教育支援 スクールカウンセラーや担任による面談 教育相談・家庭教育支援の充実 家庭教育支援チームや児童・民生委員との連携 自治連代表者による授業参観・学校説明 民生児童委員による授業参観・学校説明(5/16)(9/5) |
| 養成講座(10/9,10) | | | | ・キャリア教育部会(5/12) (2学年5/12, 1・2学年7/25) ・職業人講話3名講師(5/25) ・職業人マナー講座(6/21) ・職場体験学習(7/31・8/1・2・3) ・2学年職場体験発表会(10/19) ・「グッドタウンよし」の取組 1学年会とCS打ち合わせ(10/5) 地域学習講話、体験（ものけ、比羅山等）(10/26, 11/9, 11/25全3回) | 自治連代表者による授業参観・学校説明(5/24) 女性会、家庭教育支援チームによる参観・学校説明(5/25) 作業部会(6/12) 民生児童委員による授業参観・学校説明(9/5) 地域サポーターによる今後の支援計画協議(7/3) |
| 委員会毎月 | ・キャリア教育部会(5/12) (2学年5/12, 1・2学年7/25) ・職業人講話3名講師(5/25) ・職業人マナー講座(6/21) | | ・自治連代表者 説明(5/24) ・女性会、家庭教育参観・学校 | | |
| | | 会、民生委員会、老人クラブ、青少年育成、三次町民会議等連携 | | | |

これは、キャリア教育担当が作成した、各部会の活動をまとめた年間活動計画表です。この表で「いつ頃に」「どの学校が」「どういう取組を行うのか」等について明確になります。取組を行う前に、学校運営協議会会長を中心に連携し、確認をしたり取組をスムーズに進めたりすることができています。

取組内容や時期等の改善は、取組実施後、学校運営協議会委員の方等と今後について話し、学期末等に次年度を意識して改善・作成を行っています。

学校運営協議会委員の方々と学校のスムーズな連携により、本校区の小中が合同でボランティアを行ったり、それぞれの学校が独自の取組を進めたりすることができています。

CS導入後は、学校運営協議会委員の方々と共に実施趣旨や児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を共有するようになりました。中学校第1学年の「グッドタウンみよし」の実践を例に説明します。CS導入後、単元の中で複数回、外部人材に参加していただくこととなりました。



＜実施趣旨を伝える際の工夫＞（詳細は 27 ページに記載）

学校運営協議会委員の方々や講師と共通認識をもつために、「三次中学校が目指している3つの資質・能力」を表にしたものを提示し、学習活動の中でそれぞれの資質・能力がどのような姿で表れるか、目指す生徒の姿を具体化して説明する。

取組のねらいや内容についての共通認識を図ることで、「地域の子どもに地域全体で関わっている」「全員で同じ方向を向いて取り組んでいる」ことにつながっていきます。学校運営協議会委員の方々に学習活動を充実させるために適した講師を紹介していただき、複数回の「アイデア検討」や模擬発表・最終発表への参加等により、共に児童生徒の成長をより感じていただけるようになります。

(2) 三次中学校区オリジナルカリキュラム

Q 9年間を見通して系統的に取り組むことで資質・能力を伸ばすことができないだろうか。

ポイント

「資質・能力系統表」と同様に、9年間を見通したカリキュラムを作成。小中で同じ方向を向いた取組にする。そのためには、9年間のゴールである中学校3年生の目指す姿を意識したカリキュラムにしていくことが重要である。

三次市では、「高い志をもち、夢や目標の実現に向け、挑戦する子ども」を育成するために、全校でキャリア教育を軸とした「コアカリキュラム」を実施しています。

また、各中学校区の子どもの実態に応じた力を伸ばし高めていくため、各中学校区の特徴に応じ、小学校6年間、中学校3年間の計9年間で1つのスパンとして指導内容の連続性を意識した「オリジナルカリキュラム」を編成し、実施しています。

三次中学校区では、「校区まちガイド（郷土学習）」として、表1のような内容の取組を行い、中学3年次で行う「みよしまちガイド」を9年間のゴールとして取り組んでいます。このようにゴールに向かって各学年、各学校が取組を進めることで、同じ方向を向いた取組となります。

【表1】

| 学年 | オリジナルカリキュラム（まちガイド育成プログラム） |
|----|---------------------------|
| 小1 | 三次の四季を楽しもう |
| 小2 | そだてよう自分の野菜 |
| 小3 | ふるさととはっけん三次探検隊 |
| 小4 | ふるさととはっけん |
| 小5 | つながる 三次！～ボランティアをしよう～ |
| 小6 | つながる 三次！～伝統文化を考えよう～ |
| 中1 | グッドタウンみよし |
| 中2 | まちづくり提言(職場体験学習を通して) |
| 中3 | みよしまちガイド 9年間のゴール |

※中学校区で「オリジナルカリキュラム」を編成、実施していますが、単元名は、それぞれの学校に独自性があり、学校ごとに異なっているものもあります。

○河内小学校（1・2学年）の実践事例

ア 単元名

「校区まちガイド：もっとなかよしまちたんけん～こうちのじまんをしようかいしょう～」

地域探検や地域の方々と触れ合う活動を通して、地域のよさや人々の思いに気づき、地域への愛着を深めることをねらいとしている。生活科では、学校付近の散策により春の花みつけ、夏の昆虫探し、ぶどう栽培のお手伝い、秋のどんぐり見つけなど、地域の自然や生き物、野菜・果物などに着目した「まちたんけん」の学習を行っている。また、西城川下り「かっぱ道場」や鮎の塩焼きの試食、学校裏地でのぶどうの苗木植えなど、地域の方々支援してくださり、子どもたちに多くの体験の場を提供いただいている。それらの取組を学習に生かす単元構成とした。



イ 学習の概要、地域の方との連携

本単元では、ぶどう栽培に携わっておられる方へのインタビューから地域の方の思いや苦勞などをまとめ、児童の学習意欲を喚起するために、壁新聞で保育園児さんに伝えることを最終ゴールとして学習を進めた。



インタビューを行うにあたり、約1カ月前から生産者の方と学習の目的や栽培にかける思いなどを共有しながら打ち合わせを行った。インタビューは栽培活動が一段落した後、11月ごろに行った。内容を聞き逃さないよう、タブレットでメモしたり音声を録音したりする児童もいた。インタビューの内容は、「栽培しているぶどうの種類」「どうして河内でぶどう栽培をしようと思われたのか」などである。子どもの興味・関心を引く内容や地域への思いなどを聞き取り、壁新聞にまとめた。また、思考を整理するためにシンキングツールを活用したり、ループリックの自己評価を行ったりすることで、単元で付けたい資質・能力を子どもたちにも意識させながら、主体的な学習を展開することができた。

ウ 本単元における目指す資質・能力

| コミュニケーション能力 | 協調性 | 主体性 |
|--------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------|
| 他者とのかかわりを通して、自分の良さや友達の良さを認め合うことができる。 | 季節や行事に関わる活動を行う中で、他者とともに活動することの楽しさを知る。 | 健康や安全、決まりなどを大切にして行動しようとする。 |

エ ループリック表の作成

本単元でねらう資質・能力から、さらに具体的で評価できる学習内容とするための文言を整理し児童と共有を図ることにより、児童が振り返りを通して、メタ認知が高まった。

| | コミュニケーション能力 | 協調性 | 主体性 |
|-------|-------------------------------------|-----------------------------|--|
| A (3) | 自分の意見を発表し、良さを見つけながらまとめ、次にやることが分かった。 | 友達と協力し、よく分かる工夫をしながら新聞にまとめた。 | 安全やきまりに気をつけながら、インタビューしたり、新たな質問をしたりできた。 |
| B (2) | 自分の意見を発表し、友達と比べたり良さを見つけたりできた。 | 友達と協力し、新聞にまとめることができた。 | 安全やきまりに気をつけながら、インタビューができた。 |
| C (1) | 自分の意見を発表した。 | 新聞に調べたことを書いた。 | 地域の方の話を聞くことができた。 |

オ 資質・能力を高める工夫と実際

単元計画に沿って、ループリック表を作成した。3 観点を小單元ごとに評価項目として入れ込んだ表にして、着色状況で自己評価を表したり、記述させたりして振り返りを行った。小單元終了後のループリック表でのふりかえりは以下のとおりである。

| |
|-------------------------|
| ① たつみさんとコミュニケーションした。(◎) |
| ② 友達と力を合わせてしごとをした。(◎) |
| ③ 河内のよさがわかった。(◎) |

| |
|--------------------------|
| ① たつみさんしコミュニケーションもした。(◎) |
| ② 友だちと力を合わせてしごとをした。(◎) |
| ③ 河内のよさがわかった。(◎) |

| 項目 | 評価 | コメント |
|----------------------------------|----|--|
| 1. 学習の仕方がよく、きくことができた。 | ◎ | インタビューが楽しかったです。 インタビューをする。 インタビューして聞きたい。 |
| 2. 学習の仕方がよくなり、すすんでやってみようと思った。 | ◎ | |
| 3. 学習の仕方がよくなり、自分のやくわりが分かることができた。 | ◎ | |

| | | |
|---|---|-------------------------------|
| 1. ねらい通りに、はっぴょうができた。 | ◎ | みんな一年かかっているときに、まて、やりきったから、たて。 |
| 2. はっぴょうをして、思いはわかってもらえた。 | ◎ | |
| 3. はっぴょうをして、思いはわかってもらえ、しつもんにもよめることができた。 | ◎ | |

たせつなこともしかりつたんがいて、しつもん

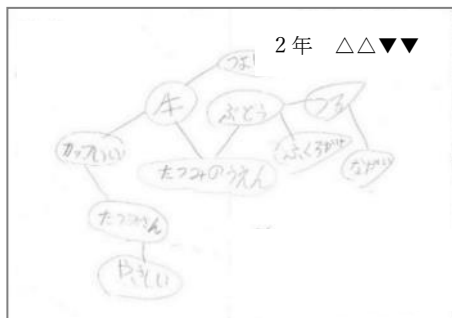
活動の始めにおいて、児童は「おいしいぶどうが食べられる。」という思いしかもっていなかった。しかし、単元が進むにつれて、「生産者さんの思いや、ぶどうづくりの工夫などのことも、インタビューを試みたい。」という思いに変わり、地域への思いだけでなく、最後に発表する近隣の保育園の子どもたちの興味・関心をひく内容などもインタビューすることが

できた。(主体性)さらには、地域の方の思いを知り、「自分たちもおいしいぶどうづくりに関わるためには、何ができるのか」を考える児童も出てきた。(コミュニケーション能力)

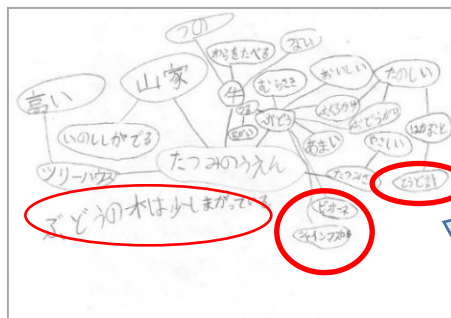
カ 評価の実際について

- 児童と単元学習前に学習のめあてを確認し、学習後にルーブリック表や記述で自己評価させる。
- 行動観察や発言から、主体的に学習へ向かう態度面を評価する。
- 事後の感想（お礼のお手紙や絵日記）から変容を見取る。
- ウェビングマップを作成させ、学習前と学習後を比較し言語の広がりから変容を探る。

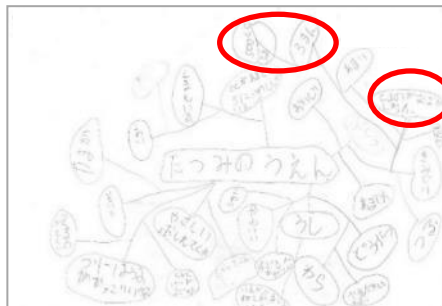
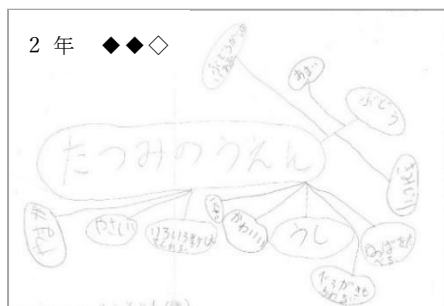
(単元導入時)



(単元終了後)



ぶどうの品種名や木についての気づき等を記述している。

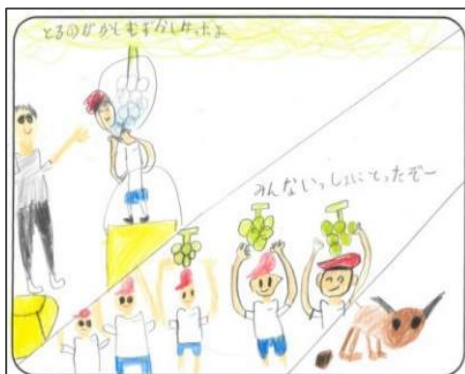


収穫時の気づき、販売時の適正な重さのことを記述している。

キ 活動に係る資料



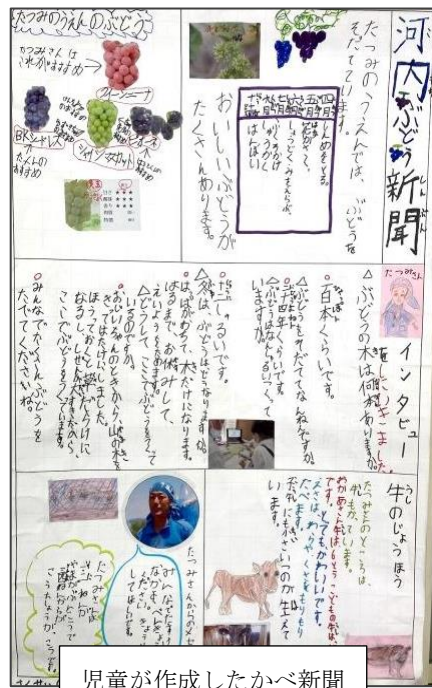
糖度計で測る児童



おいしいぶどうができました！

たつみさんへ
全曜日、タイムマスカットのしりとりで、行かせていありがたく、ごいまいは人楽しかったことは、切の糖度計で計ることが出来ました。
切る時、キーンという音がえよが、たつみです。
次は、みくろをやるので、おまじりしました。二は、目に合った糖度計で計ること、楽かったです。
牛も見て、かわいかったです。ありがとうございました。

児童のお礼のお手紙



児童が作成したかべ新聞

○三次小学校（6学年）の実践事例

ア 単元名

「つながる三次～にぎわいのある街にする企画を提案しよう～」

本単元は、自分たちの住む地域について興味をもって調べたり、地域の方の思いを聞いたりすることで、自分たちの住む地域で受け継がれてきた文化・歴史の良さに気づき、地域のよさを伝えるために、自分たちにできることを考えて地域の方に提案することをねらいとしている。

自分たちが住んでいる三次町には、多くの文化や歴史が残っている。そんな文化や歴史に興味をもち、現在まで受け継がれている理由や三次町の良さを伝える方法などを考えていくことで、「三次町が好き。」「三次町のよさを知ってもらいたい。」「三次町にたくさんの人に来てもらいたい。」などの思いにつなげ、地域の一員としての自覚や愛着が高めたいと考え、単元を設定した。

イ 学習の概要、地域の方との連携

本単元では、主に、三次町にある比熊山をより盛り上げるために、比熊山について、地域の方にお話をさせていただいたり、実際に比熊山に登ったりして情報を集め、「歴史」「文化」「観光」の3つの視点からグループに分かれて整理・分析をしてまとめ、企画書を作成し、地域の方に提出する計画を立てた。

地域の方との連携については、まず、コミュニティセンターの館長に学習の趣旨を伝え、ゲストティーチャーとしてふさわしい人を探していただいた。その後の連携も、館長を通じて日程の調整や打ち合わせを行い、2回ほど来校していただき、さらに、比熊山登山にも来ていただいた。

比熊山に詳しい地域の方から説明をいただいた内容をグループごとにまとめ、プレゼンを作成した後、改めて地域の方に内容を発表し、アドバイスをいただいた。地域の方から頑張りを伝えてもらったり、改善点を教えてもらったりしたことで、グループで協力して主体的に学習に臨む姿が見られた。



ウ 本単元における目指す資質・能力

| コミュニケーション能力 | 協調性 | 主体性 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">自分の考えをもち、言葉や資料をもとに伝え合っている。他者の思いを受け止め、自他の良さを生かしながら認め合い、よりよい内容にしている。 | <ul style="list-style-type: none">目標達成のため、自分や他者の役割を理解し、協力する中で、アドバイスしている。 | <ul style="list-style-type: none">ふるさと三次の良さを知ってもらうために、課題を見つけさらに詳しく調べようとしている。 |

エ ループリック表の作成

| | コミュニケーション能力 | 協調性 | 主体性 |
|----------|--|---|---|
| A (3) | 他者の評価を受け止め、自他の良さを生かしながら、よりよい内容にしようとした。 | 目標達成のために、自他や他者の役割を理解し、協力する中で、アドバイスすることができた。 | ふるさと三次の良さを知ってもらうために、課題を見つけ、さらに詳しく調べようとした。 |
| B (2) | 他者の評価を受け止め、その評価を取り入れた。 | 目標達成のために、自他や他者の役割を理解し、協力することができた。 | ふるさと三次の良さを知ってもらうために、課題を見つけ、調べようとした。 |
| C (1) | 他者の評価を受け止めた。 | 目標達成のために、自他や他者の役割を理解した。 | ふるさと三次の良さを知ってもらうために、課題を見つけた。 |

オ 資質・能力を高める工夫と実際

比熊山のよさをいろんな人に伝えることができてよかった。

【コミュニケーション能力】



企画書を作る中で、三次町の良さにも触れることができたのがよかった。

【主体性】

- 地域の方からの思いを受けて、学習に取り組んだことで、児童は目的意識をしっかりとって取り組むことができた。
- 以前は、自分の思いが通らなければすねたり、怒ったりする傾向が見られたが、学習を通して、現実を見据えて可能かどうかを考えることができるようになった。さらに、友達との話し合いも進められるようになった。

カ 評価の実際について

- 単元導入時にめあてや目的を確認し、活動ごとに振り返りシートで自己評価を行う。(資質・能力について4段階評価 及び 記述)
- 行動観察や発言、ワークシート等から、主体的に学習に向かい態度面を評価する。
- 児童が作成した企画書をもとに評価する。
- 発表時に相互評価を行う。

つながらる三次〜にぎわいのある町にするための企画書を受賞しよう〜
名前()

コミュニケーション能力
○をつけましょう。

| 項目 | 評価 | | | |
|---|----------|------------|---------------|-------------|
| 比熊川についての詳細について、自分の意見を話したり、友達の意見を聞くことができた。 | 1 できた | 2 まあできた | 3 まあできなかった | 4 できなかった |
| 相手の意見や考えを受け止めることができた。 | 1 できた | 2 まあできた | 3 まあできなかった | 4 できなかった |

自分は、この時期、グループのために何をしましたか。書きましょう。
書けない人は、なぜグループのために動けなかったかを考えて振り返りましょう。

意見をとらせなかったけど
友達とあまり理解できなかったところはメモのアプリで
おしえました。

来週の総合的な学習の時間に、何をすればよいと思いますか。
予定：12月末に、企画書を西川さんと藤井さんに提出する。

卒業したとき、これで、西川さん・藤井さん
に何かをプレゼント、何かをもう一度振り返り見る

振り返りカード

名前()

(1) 振り返りチェック

| | とても | 普通 | 少し | あまり | 全然 |
|------------------------------------|-----|----|----|-----|----|
| ① 自分の役割を持って振り返ることができた。 | | ○ | | | |
| ② 自分が関わっている事にのりてみんなに関わることができた。 | | | ○ | | |
| ③ 自分たちと作業が合うで自分の意見を積極的に発言できた。 | | | ○ | | |
| ④ 話し合いから進んず、話し合いの人と関わることもできた。 | | | ○ | | |
| ⑤ 話し合いがスムーズに進み、最終まで話し合えずに終わってしまった。 | | | | | ○ |
| ⑥ 友達と協力して、課題を達成することができた。 | | | | | ○ |
| ⑦ グループとしてみんなの力を活かすことができた。 | | | | | ○ |

(2) 自分が特に良かったこと1つあったら？

① 振り返りカードに何かあったら、振り返り
② 周りの人と協力して何かあったら、振り返り
③ グループで何かあったら、振り返り
④ 振り返りカードに何かあったら、振り返り

(3) 自分が特に良かったこと1つあったら？

① 振り返りカードに何かあったら、振り返り
② 周りの人と協力して何かあったら、振り返り
③ グループで何かあったら、振り返り
④ 振り返りカードに何かあったら、振り返り

(4) 振り返りカードのこと？

(5) もっと聞きたいことは？

その振り返り場所がわからないことと、他にどんな質問もなにかあるのか。

キ 活動に係る資料

～児童が作成した資料（ロイロノート）～

歴史グループ

文化グループ

比熊山城跡について

三吉氏が最初の居城であった比え尾山城（広島県三次市畠敷町）から、比熊山城へ移ったのは天正19年（1591）とされています。また、郭壁の至る所に石垣跡あるいは崩落石が残っており、三吉氏は相当な人員を動員して石垣城を築こうとしたことがわかります。



観光グループ

東屋

比熊山の頂上から少し降りたところに東屋があります。
東屋は比熊山に登山した人が休憩したり、高いところからの景色を楽しんだりできるスペースです。



比熊山登山マップ（手作り）

○三次中学校（1学年）の実践事例

ア 単元名

「グッドタウンみよし」

本単元では、三次を盛り上げようとしている地域の聞き取りから地域の方の思いや取組などを参考に、地域の方に向けて「三次の活性化（稼げる観光）」の提案を最終ゴールとして学習を進めた。自分たちの住んでいる三次町の伝統や文化に興味をもつとともに、三次市全体の伝統や文化について興味を広げ、自分たちができることについての探究的な学習を行う。具体的には三次市の経済発展の現状に着目した上で、三次市の活性化について課題を設定する。

三次市の現状と課題について講話を聞いた上で、「三次市を発展させたい」、「三次市に今あるものを活用できないか」「三次市内の取組で見直すべきものはないか」などの考え方につなげ、「三次市の強み・弱み」について考え、整理・分析やまとめ・表現できるようにすることをねらいとしている。

イ 学習の概要，地域の方との連携

「知りたい」「調べてみたい」という探究心を高めるように単元計画を工夫した。具体的には、生徒が課題について身近でわかりやすい場面を設定し、「三次の活性化」をテーマに取り上げることでより生徒の課題意識を高めた。また、1人1探究をゴールとすることで、自ら課題を解決しなければならないという責任感を持たせる。また、自分の考えをブラッシュアップさせてより良いものにしていくために、自分の考えを仲間と共有したり、相談したりする場面を設定し、生徒自身が仲間と協力する姿が見られた。ゲストティーチャーを招聘し、生徒が実際に見たり体験したりする活動を多く取り入れることで、授業や活動の楽しさを感じている姿が多く見られた。

この取組を進めるにあたり、学校運営協議会委員の方にはこの取組を始める3カ月前の計画段階から参画していただき、該当学年である1学年と連携を行った。取組の途中での連携は、学校運営協議会（会長、副会長）とその都度行い、講師の選定も行った。生徒のアイデア検討の場面では10名の方に講師として参加していただくことができた。アイデア検討2回、発表会1回の計3回生徒に関わっていただき、生徒とのつながりや成長の様子も見ていただくことができた。

ウ 本単元における目指す資質・能力

| コミュニケーション能力 | 協調性 | 主体性 |
|--|------------------------------|----------------------------------|
| 他者の思いを受け止め、言葉で伝え合うことを通して、互いを理解し合うことができる。 | 目標達成のために、自らの役割を理解し、他者と協力できる。 | 自ら行動して新たな価値を生み出し、積極的に他に貢献しようとする。 |

エ ループリック表の作成

| | コミュニケーション能力 | 協調性 | 主体性 |
|---------|---|--|------------------------------------|
| 満足できる | 自分の考えと仲間や講師の方の考えを論理的に比較検討することで考えを深めることができる。 | 三次活性化を目指すという目標達成のために、仲間や講師の方との話し合いから、よく分かる工夫をしながら企画書にまとめることができる。 | 自ら行動して企画書を作成し、積極的に三次の活性化に貢献しようとする。 |
| 概ね満足できる | 自分の考えと仲間や講師の方の考えを比較検討することで考えをもつことができる。 | 三次活性化を目指すという目標達成のために、仲間や講師の方との話し合いから、企画書にまとめることができる。 | 自ら行動して企画書を作成し、三次の活性化に貢献しようとする。 |

オ 資質・能力を高める工夫と実際

取組に対して、はじめにオリエンテーションを行い、つけたい力（3つの資質・能力）や単元の流れを確認した。それぞれの授業（1時間）においても、授業導入時に、ねらい（この時間でつけたい力）を全体で確認することで、目指す姿の具体化につながり、振り返りで自己評価しやすくなる。他者評価として、教職員やゲストティーチャーが目指す資質・能力を意識しながら授業における生徒の姿に対する肯定的評価を行ったり、振り返りに対して教職員がコメントをしたりすることで、学びへの価値づけを行う。

1学年 総合的な学習の時間

グッドタウン三次 振り返り用紙

1年1組 19番 氏名(フリガナ)

○目指すゴール

| コミュニケーション能力 | 協調性 | 主体性 |
|--|---|---|
| ○自分の考えを持ち、自分と他者の違いや考えを比較検討しながら話すことができる。 ○模範もとに敬語を立てて伝えることで、互いを理解し合うことができる。 ○自分の考えと他者の考えを論理的に比較検討することで考えを深めることができる。 ○他者と論議することで考えが充実することのよさが見える。 | ○一人では解決が難しい課題に対して、他者とともによりよい解決方法を考えることができる。 ○協議して取り組むことができる。 | ○日々の生活の中で、自己や社会の課題に対して、自ら目標を設定することができる。 ○自らの判断で、よりよい取組方法を模索しながら行動することができる。 |

○振り返り

(3つの目指すゴールを整理して書く。よりgoodです！)

企画書と発表資料の作成・発表練習 ① 10/27(木)

グループで相談して、おいしいポイントなどを決めることができた。

(コミュニケーション能力)

企画書と発表資料の作成・発表練習 ② 11/1(水)

企画書が完成した。自分の発表を聞く人にわかりやすく伝えたいと思った。(協調性)

企画書と発表資料の作成・発表練習 ③ 11/9(水)

完成した企画書をもとに、グループで発表の練習を行った。自分も含め、発表練習ではつまるときがありスムーズに進まなかったのもう少しゆっくり話すことを意識していく。(主体性)

第1回発表会 11/10(木)

発表して、アドバイスももらえたり、しっかり自分の企画を言えてよかったです。自分のパンフレットに、自分のグループの案のことも書いて宣伝すると、もっとグループの案が実現化できると思いました。(主体性)

友達や講師の方と話すことで、自分一人では気づけなかったことが直せた。

箇条書きにして、わかりやすくなったと思う。(協調性)

第2回発表会 11/17(木)

最初に比べ、相手意識をもって、自分の考えをしっかり発表できてよかったです。誰か一人のアイデアでも実現してほしい。(主体性)

カ 評価の実際について

- 生徒と単元学習前に学習のめあてを確認し，学習後に記述をもとに自己評価させる。
- 行動観察や発言から，主体的に学習へ向かう態度面を評価する。
- 生徒が作成した企画書をもとに評価する。
- 発表時に相互評価を行う。

キ 活動に係る資料



講師の方が入ったの「アイデア検討・企画書作成」



実際に町内に出て，生徒に考えさせることにつなげているグループ



発表会の場面

(3) 出前授業

Q 教科等の学習において、児童生徒に「学ぶ意義」を感じさせたいとき、どのような工夫をすればよいのだろうか。

ポイント

普段学んでいる授業と生活をつなぐために、地域（社会）で活躍されている方に学習内容や教科の本質と、自身の働くことを結び付けた「出前授業」を依頼し、実施する。

「先生、〇〇（教科名）って何のためにするの？」こんなことを子どもから聞かれたことはありませんか。子どもからの「学習していることが、将来とどのようにつながっているのか」という問いの答えを子供たち自身が見つけていくことが大事だと考えます。そこで、学習と生活（日常）をつなぐものの一つに「出前授業」を計画しました。社会や地域で活躍されている方に授業をしていただくことで、日々の学習と生活（日常）・仕事のつながりや、講師の方の話から「自分はまだ〇〇ができていないのでがんばろう。」や「（将来のためにも）△△をより一層がんばっていこう。」など、自分を見つめ直すことにもつながっていきます。

地域の方による出前授業の例

国語科「パンフレットを読もう」（株式会社東洋広告）

【三次市立三次小学校 第4学年】

国語科において育成する資質・能力

- 多様な情報を集める方法、課題を解決するために効率的・効果的な手段をよりよく選択して、情報を集めることができるようになる。
- 収集した情報をより深く整理・分析したり、自分の意見により確かな根拠付けを行ったりさせることで、整理・分析することができるようになる。
- 相手や目的に応じて分かりやすく伝わるように、論理的で効果的な表現の工夫をしたり、学習を振り返る中で、より物事や自分自身に関して深い気付きとなるような考え方を深めたりすることができるようになる。

事前連携・準備

- 国語科「パンフレットを読もう」において、「詳しく教えてくださる人がいたらよいな。」と児童からの意見が出た。
- その思いを受けて、ゲストティーチャーをさがす中で、保護者の中に広告関係の仕事をしている方がおられ、ゲストティーチャーの依頼をした。
- ゲストティーチャーに、学習の意図や内容、学校の生徒への思いを伝え、計画を立てた。
 - * ポスターやリーフレットなど、発信方法の役割・はたらきについて
 - * 児童が悩んでいること（自分が伝えたいことを伝えるための方法は？）等
- 授業を行うにあたり、企業が準備してくださったアンケートを実施した。その結果を基に、授業を行ってくださった。

学習の流れ

1 つかもう（主体性）

- ①今の自分と出会おう！「どんなことになやんでいるの？」
- ②まずは何から？「大切なことは、急がば回れ」
- ③さあ考えよう！・どんな人に・何を・なぜ・いつ、どこで「伝えたい？」
- ④「ポスター」「ちらし」「パンフレット」作りのコツとポイント（GT 来校）
※ 保護者にもキャリア教育について知っていただくため、参観日に授業をしていただいた。
- ⑤ジャンプ率をつかもう
- ⑥縦書き？横書き？「人の目の動きに着目しよう！」
- ⑦どっちが大事？「大事てんびんを作ろう」
- ⑧伝えたいことを整理しよう「機能？カラフルさ？値段？お得感？ 等」
- ⑨大事なものにスポットライトを当てよう！
「色のライト」「地のライト」「余白のライト」「サイズのライト」「そろえないライト」

2 簡単なチラシを作成しよう（コミュニケーション能力・協調性）

- ・数回に渡り、児童が作成したチラシに対してアドバイスをいただいた。（ゲストティーチャー来校）

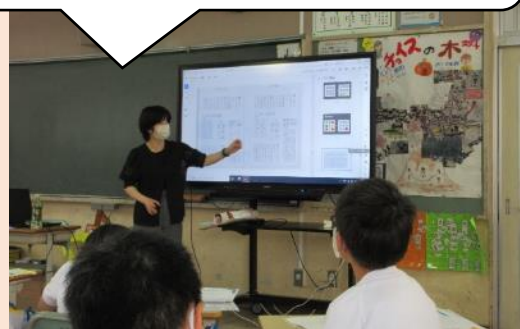
3 振り返ろう（主体性・協調性）

【授業の様子】2つのポスターを見て、気付くことは？

左は色が薄いけど、右は濃いです。
左は絵がかいてあるから、三次をめぐると楽しさが伝わります。



文字の色によって、どのような違いがあるかということ・・・



児童の振り返り，教職員や地域の方々の思い

(児童の振り返りから)

- パンフレットに書いてある文字や文章は，作成した人が伝えたいことや，見る人が知りたいことを予測しながら書いていることが分かった。おかげで，国語の教科書に載っている資料を読むとき，「このパンフレットは何を伝えたいのかを考えたり，パンフレットのたりない部分を考えたりしながら読むことができた。今まで町に貼ってあるポスターやパンフレットはただ見るだけだったけれど，帰り道に立ち止まって見ると，伝えたい言葉を短い言葉でわかりやすく書く方法が見つかった。新聞の宿題のときに使いたい。
- 社会見学でいただいたパンフレットを見ると，文字と写真や絵の使い方がすっきりしていることに気が付いた。文章と絵の関係が何となくわかるようになってきた。理科の教科書もここところというところは大きな文字で書いてあったり，写真が貼ってあったりしていることに気が付いた。なんとなく，どの問題がテストに出るのか予想しながら見ることができた。

(教職員の思い)

- 児童は，これまでに様々な説明的な文章を読んでおり，第3学年では身の回りのポスターの工夫などについても考えている。また，社会科や総合的な学習の時間などにおいて，課題を追究するために資料を読む経験も積んでいる。こうしたことを踏まえ，学習では，パンフレットの特長について捉えさせたいという思いで，ゲストティーチャーと連携を図った。
- ゲストティーチャーによる授業を終え，パンフレットを読んで文章の内容や構造を捉え，パンフレットに使われている語句を，特徴や使い方によって類別して捉えるとともに，内容の中心となる語や文を選ぶことができるようになった児童が増えた。説明文の学習でも，段落の中の中心語に着目できる児童も増えてきた。自分の意見や感想を言うときも，「相手に分かりやすく短く！具体と抽象」を意識して，話そうとする児童が増えてきた。また，児童は，身近に掲示してあるパンフレットに使われている文や言葉，絵や写真の特徴や役割を捉えながら，パンフレットの読み方や工夫について考えるようになってきた。

(ゲストティーチャーの感想)

- 授業では，文字の大きさや位置，文章と絵との関係など，パンフレットを見て気が付いたことを出し合ったり，知りたい情報を得るためにパンフレットをどのように読めばよいのかを考えたりすることで，パンフレットが目的や相手に応じて工夫して作られていることに，たくさんの子が気が付いたと思います。実際にパンフレットを作成するときに，子どもたちが口ぐせのように「どっちが大事！」と言いながら目的に応じた色や写真，見出しの言葉を選んでいたことがとても印象的でした。どのような話をしていても真剣に聞き，質問をしてくれたり，自分たちの考えをどんどん出してくれたりする子どもたちとの授業は，とても楽しかったです。また，子どもたちから気付かされることもたくさんありました。子どもたちの考え方や，見方，感じ方が参考になりました。私の仕事の中でも生かしていきたいと思いました。

社会科【三次中学校第1学年】
「三次の道路を観察する」(三次地方史研究会)

目的と育成する資質・能力

(目的) 三次活性化のための「稼げる観光」を考えるために、三次町の小路について知る。

○「小路」をキーワードに三次の町における人々の生活の特色やその変容の理由を、様々な条件に着目し、仲間と共に多面的・多角的に考察し、表現することができる。(協調性)

○三次の町における人々の生活と環境について、よりよい町の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。(主体性)

○自分の考えを持ち、自分と他者の思いや考えを比較検討しながら聞くことができる。(コミュニケーション能力)

事前連携・準備

講師が地域の方であり、年度当初、学校に来られ、「歴史(小路)の研究をしているので、何か生徒の役に立つことがあれば言ってほしい。」と言われる。そこで、総合的な学習の時間や社会科の出前授業とのつながりがあると学校側が捉え、1学年会が講師の方と複数回連携を取り、計画した。その中で、学校(教員)が講師の方に取組の概要を説明し、生徒実態と共に目指す生徒の姿(三次中学校区で目指している資質・能力)の共有を行った。

学習の流れ

1 【社会科】「小路」をキーワードに三次の町を観察し、これからの三次を考える。(講師の方による出前授業)

①三次町の歴史を知る。

江戸時代の地図からわかることを出し合う。

(暮らし、文化など)

②古い地図と新しい地図で比較する。

江戸時代と現在の地図からわかることを出し合う。(個人→グループ)

③現在も現存している「小路」について考える。

「小路」を大切にされている人の思いを知る。(考える。)

※この時間で学習したことを、総合的な学習の時間「グッドタウンみよし」につなげる。

2 【総合的な学習の時間】

三次活性化のための「稼げる観光」を考える学習へ

①これまで三次について学習してきたことを振り返り、これからの展望を持つ。

②歴史のある「小路」を生かした取組を考える。

②個人の課題を見つけ、整理する。グループで協議し、課題解決までの道筋を



えがく。(ゲストティーチャーとともに「小路」を用いた稼げる観光を考える。)

③ゲストティーチャーによる町内巡り。

- ・自分たちが考えた計画を実際に現地へ赴き、実現に向けて考える。(グループ)

④まとめ、発表

- ・得た情報をまとめ、動画の作成・発表をする。



成果（生徒の振り返り、教職員や地域の方々の思い）と課題

(生徒の振り返りより)

- ・80年前は三次が盛んな町だったということ、また三次の町は自然につくられたのではなく、過去にさかのぼると、武士や町民が計画してつくっていった町だということが分かった。
- ・講師の方に小路のことについて教えてもらい、そのことが、グループだけでは思いつかなかったアイデアのヒントとなった。班でよく話し合って友達の意見を聞くうえで自分からも意見を出すことができていたので、コミュニケーション能力、協調性の力が高まったと思う。
- ・小路を使ったスタンプラリーで悩んでいたら、講師の先生が「お店の方に協力してもらおうのも」ということを言われ、小路の周辺にあるお店を友達と協力して調べることができた。
- ・小路を実際に歩いたことで、どこに何があるのかが分かった。石碑などを利用してクイズを作成することを提案することができた。

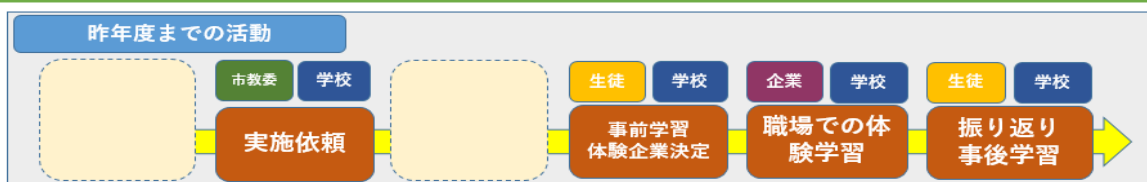
(4) 職場体験活動（中学校2学年）

Q 職場体験活動を、どのように計画・実施すればよいのだろうか。

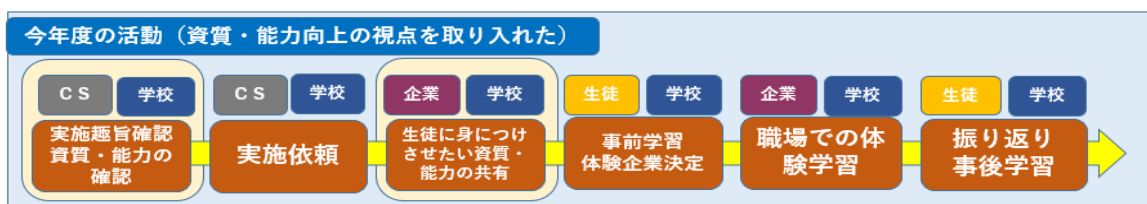
ポイント

生徒自身が「身に付けたい資質・能力」を意識した取組にする。生徒には、自分の「つけたい（伸ばしたい）資質・能力」を明確にさせ、事業所の方には「特に力を入れている資質・能力」を明示していただくことで、生徒の目指す姿や振り返りがより具体になる。

【図1】



【図2】



昨年度までの活動【図1】では、学校が全ての連携を行っていましたが、今年度の活動【図2】では、CSの方と共に、実施趣旨や目指す資質・能力を確認したり、各事業所との連携をしたりしました。実施依頼において、【図2】の内容を共有したことで目指す資質・能力が発揮される具体的な場面について各事業所の担当者と共通認識をもつことができました。

職場体験学習の第1時にオリエンテーション※1を実施し、職場体験の目的を確認します。

事業所からも「特に力を入れている資質・能力」を出していただき、生徒の「働きたい仕事」を優先するのではなく、「伸ばしたい資質・能力」を一番に捉えさせました。そのため、「仕事が楽しかった。」「面白かった。」だけではなく、振り返りににおいて「自分が意識していた〇〇（資質・能力）の達成率は〇〇%」と目的意識をもって振り返りができたと考えます。担当学年の指導者が日常から「資質・能力を伸ばすための職場体験である」ということを意識させたことで、生徒は目指す資質・能力に係る自己分析として、「自己の強みを生かす」「弱点を理解し、克服していく」等、一人一人が目的意識をもって職場体験学習に臨みました。

※1 オリエンテーション（学年教員によるパワーポイントでの説明）

- ①職場体験学習の目的、今後の日程（外部人材について、事前訪問等）を確認する。
- ②職場体験学習を通して身につけてほしい3つの資質・能力を教師から説明し、生徒と確認する。
（説明例）「〇〇という場面で△△できたら、協調性が身に付いたということです。」
- ③3つの資質・能力のうちから、特に自分が身につけたい資質・能力を考えさせ、意識させていく。

笑顔で接する大切さを学び、1日目より3日目の方が笑顔で接することができた。先生方はずっと子どもたちに笑顔で接していてすごいと感じた。【コミュニケーション能力】



三次中学校がめざしている3つの資質・能力

| 各項目 | 具体的な場面（例えば） |
|-------------|--|
| コミュニケーション能力 | <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人と話し合う場面がある。 ・作業に対して自分の考えを持ち、周りの人と考えを共有する（話す）場面がある。 ・周りの人の意見をもとに作業を行う場面がある。 ・作業の中で「なぜその作業を行うのか」を生徒自身が確認する場面がある。 |
| 協働性 | <ul style="list-style-type: none"> ・難しい課題に対して、周りの人と一緒に考える場面がある。 ・自らの役割を理解している。 ・作業等の場面で、周りの人と一緒に取り組む場面（仲間、地域、社会と協力する場面）がある。 |
| 主体性 | <ul style="list-style-type: none"> ・その日の作業を行うにあたり、目標を設定し、ふり返る場面がある。 ・自分で判断して取り組む場面（自ら積極的に行動する場面）がある。 |

※1・・・他者：学校生活だけでなく、地域住民等、社会で暮らす全ての人

○事業所の方より【主体性】についての評価

利用者の方に対し、自分から折り紙や塗り絵をするなど積極的に取り組んでくれました。



子どもたちが勉強で悩んでいる時には一緒になって考えてくれたり遊具やサッカーなどで遊んでくれたりと率先して取り組んでくれました。



祭りの計画に関わって、ポスター作りを主体的に取り組むことができていました。

○職場体験成果発表会



職場体験学習発表会では、いくつかのグループに分かれて、タブレットを使って、まとめを発表しました。この会には、全員ではありませんが、職場体験でお世話になった事業所の方とコミュニティ・スクールの方が参加してくださいました。

私の資質・能力に関わる目標は「協調性、自ら積極的に他者と関わること」でした。

この目標に対する達成度は **80%** です。理由は、慣れてくると楽しく、自分から子どもたちや先生方と関わる事ができたからです。



「言葉で伝え合い、自分から行動する」の達成度70%が嬉しいです。体験された感動や思いが伝わり、とても良かったです。



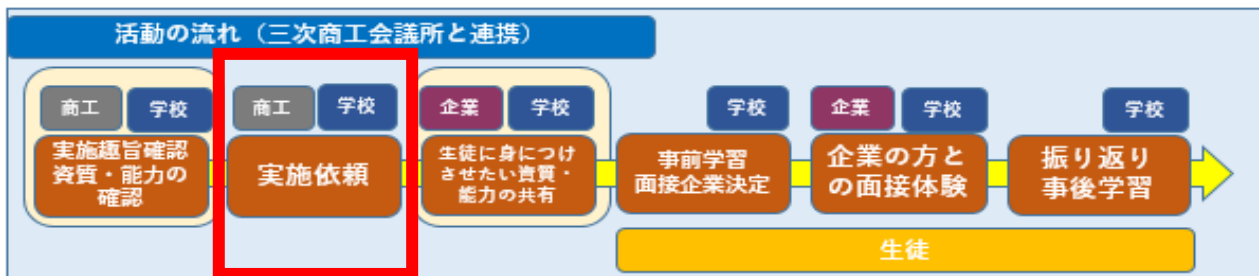
挨拶など意識され、協調性の達成度78%は素晴らしいですね。自分から進んで行動された結果ですね。

(5) 職場体験前の就職採用試験模擬面接（中学校2学年）

Q 就職採用試験模擬面接とは、どのように実施すればよいのだろうか。

ポイント

就職採用試験模擬面接として実施する際、生徒が「自分を見つめ直すこと」や「相手意識をもって自分の思いを伝えること」につなげることが重要である。



就職採用試験模擬面接は、「勤労に対する考えを深めるとともに、自己を表現する力、自己を認識する力の向上を図ること」「職場体験学習に向けて、企業（仕事）に対する考えを深めること」を目的として実施します。商工会議所へ依頼し、12社が協力してくださりました。この模擬面接は、「中学生が採用試験に応募してきて、面接を受けている」という想定で実施しました。

面接評価シート（生徒）

面接評価シート（生徒）

2019年7月15日（金）評価者（ 担任 ）

| 項目 | 内容 | 評価 | メモ欄（特に何かあれば） |
|-----|--------------------------------------|----|--------------|
| | | 評価 | メモ欄 |
| 動機 | 本気で入学したいという意欲、志望校の方針や校風、能力の理解、入学後の目標 | A | A |
| 態度 | さびきびした動作（入室の様子、姿勢）、身だしなみ、言葉遣い | A | A |
| 表現力 | 質問の意味理解と正対した対応、敬語（敬称語、丁寧語、謙譲語） | A | A |
| 積極性 | 自分のことを知ってもらう努力、進んで意見や考えの発表 | A | A |

【評価】 A：十分にできている、B：おおむねできている、C：できていない

| 評価の観点 | 評価項目 | 具体的評定 | 評価の観点 | 評価 | コメント |
|-------------|---|---|-------|-----|------|
| | | 1(十分) 2(やや) 3(普通) 4(不足) | | | |
| コミュニケーション能力 | 自分の考えを持ち、他者の思いを受け止め、言葉で伝え合うことを絶えず、互いを理解し、認め合える。 | ①「動機もともと、自分の考えを持っている」 ②「敬語（敬称語、丁寧語、謙譲語）を適切に使用している」 | ① ② | ○ ○ | |
| | 質問と目標を共有し、目標達成のために、自らの役割を理解し、他者と協力する。 | ③「自らの役割を理解している」 ④「自らの役割（仲間、地域、社会）と協力している」 | ③ ④ | ○ ○ | |
| | 自らの夢と志を持ち、自ら行動し、新たな目標を生み出し、積極的に他者と共有しようとする。 | ⑤「夢や志（企業活動における）を明確に持っている」 ⑥「自ら行動し、積極的に他者と共有しようとしている」 | ⑤ ⑥ | ○ ○ | |

評価：事前・事後（コメント）

【事前】 面接の緊張感を感じ、緊張していたが、面接官の話をよく聞き、自分の考えを伝えることができた。面接官の質問にも積極的に答えることができた。面接官の話をよく聞き、自分の考えを伝えることができた。面接官の質問にも積極的に答えることができた。

【事後】 面接の緊張感を感じ、緊張していたが、面接官の話をよく聞き、自分の考えを伝えることができた。面接官の質問にも積極的に答えることができた。面接官の話をよく聞き、自分の考えを伝えることができた。面接官の質問にも積極的に答えることができた。

面接評価シート（面接官）

面接評価シート（面接官）

【面接評価シート】
2年 B組 2番 生徒名（ 坂垣 潤 ） 命

| 項目 | 内容 | 評価 | メモ欄（特に何かあれば） |
|-----|--------------------------------------|----|--------------|
| 動機 | 本気で入学したいという意欲、志望校の方針や校風、能力の理解、入学後の目標 | A | |
| 態度 | さびきびした動作（入室の様子、姿勢）、身だしなみ、言葉遣い | A | |
| 表現力 | 質問の意味理解と正対した対応、敬語（敬称語、丁寧語、謙譲語） | A | |
| 積極性 | 自分のことを知ってもらう努力、進んで意見や考えの発表 | A | |

【評価】 A：十分にできている、B：おおむねできている、C：できていない

| 評価の観点 | 評価項目 | 具体的評定 | 評価の観点 | 評価 | コメント |
|-------------|---|---|-------|-----|------|
| | | 1(十分) 2(やや) 3(普通) 4(不足) | | | |
| コミュニケーション能力 | 自分の考えを持ち、他者の思いを受け止め、言葉で伝え合うことを絶えず、互いを理解し、認め合える。 | ①「動機もともと、自分の考えを持っている」 ②「敬語（敬称語、丁寧語、謙譲語）を適切に使用している」 | ① ② | ○ ○ | |
| | 質問と目標を共有し、目標達成のために、自らの役割を理解し、他者と協力する。 | ③「自らの役割を理解している」 ④「自らの役割（仲間、地域、社会）と協力している」 | ③ ④ | ○ ○ | |
| | 自らの夢と志を持ち、自ら行動し、新たな目標を生み出し、積極的に他者と共有しようとする。 | ⑤「夢や志（企業活動における）を明確に持っている」 ⑥「自ら行動し、積極的に他者と共有しようとしている」 | ⑤ ⑥ | ○ ○ | |

面接を終えて（面接官より）

項目①～⑥を評価（○つけ）をお願いします。

面接を終えて（面接官より）

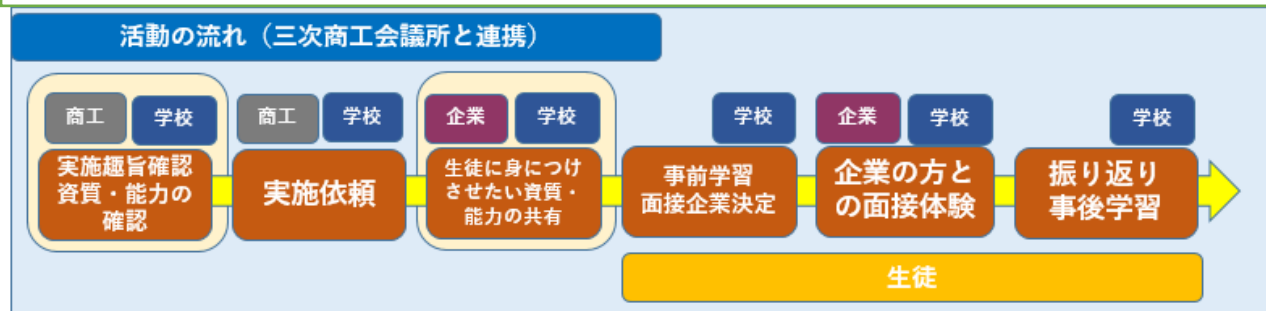
面接官の話をよく聞き、自分の考えを伝えることができた。面接官の質問にも積極的に答えることができた。面接官の話をよく聞き、自分の考えを伝えることができた。面接官の質問にも積極的に答えることができた。

(6) 将来の進路選択に向けた外部人材を活用した面接体験について (中学校3学年)

Q 外部人材を活用した面接体験とは、どのように実施すればよいのだろうか。

ポイント

面接をしていただく企業（面接官）と細やかな連携を行うために、「面接評価シート」を活用する。



「社会人として必要なコミュニケーション能力及び進路を実現させる力を身に付けさせること」「企業の方の視点で面接を行うことで、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせること」を目的に、中学校3年生で実施しました。はじめは各企業それぞれへの依頼ではなく、管理職を通して、三次商工会議所へ依頼し、三次商工会議所が窓口となり、企業11社が協力してくださることとなりました。

面接官との連携の流れ

- 三次中学校区で目指している資質・能力を意識した面接及び評価をお願いした。
 - 評価については、はじめに管理職（校長）が各面接官と直接連携を行った。資料として、「評価シート（見本）」、目的・概要・当日の流れの入った「企業の方による中学生の面接体験について」、「自己表現カード（見本）」を用いた。さらに面接日1週間前に、実際に面接を行う生徒が書いた「自己表現カード」を面接官に渡す。当日も、面接実施前に担当教諭より説明を重ねて行う。
 - 「中学生が公立高等学校入学者選抜（一次選抜）、自己表現及び面接を受けている」という想定での実施であること等、面接の目的を伝える。
- ※評価シートでは、「公立高等学校入学者選抜で用いる評価表」の「ア 自己を認識する力」「イ 自分の人生を選択する力」「ウ 表現する力」を各5点満点で評価するとともに、「三次中学校区で目指している資質・能力」の3観点「コミュニケーション能力」「協調性」「主体性」を「具体的な評価」をもとに「ABC評価」。また、「面接を終えて」として面接官よりコメントの記入をお願いする。
- 高校や大学で「こんな勉強をしておくといよい」「こんな力をつけておけばよい」等、生徒に伝えてもらうことを確認した。

【面接評価シート】
 年 組 番 生徒名 () 令和5年11月16日(木) 評価者 () 【合計点】 点 / 15点中

1 公立高等学校入学者選抜で用いる評価表

| 評価の観点 | | |
|--|---|--|
| ア 自己を認識する力 | イ 自分の人生を選択する力 | ウ 表現する力 |
| 評価基準 | | |
| 自分が何が好きなのか、自分はどのような人間なのかなど、 <u>自分自身のことを認識することができている。</u> | 自分の考えや目標、自分がやりたいことなどについて、 <u>自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができている。</u> | 自分自身のこころや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、 <u>相手や聴衆に応じて、言葉の言い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができている。</u> |
| 評価及び評価の観点(該当する□に✓) | | |
| 5点 <input type="checkbox"/> 「十分に満足できる」状況 | <input type="checkbox"/> 「十分に満足できる」状況 | <input type="checkbox"/> 「十分に満足できる」状況 |
| 4点 <input type="checkbox"/> 「おおむね満足できる」状況 | <input type="checkbox"/> 「おおむね満足できる」状況 | <input type="checkbox"/> 「おおむね満足できる」状況 |
| 3点 <input type="checkbox"/> 「努力を要する」状況 | <input type="checkbox"/> 「努力を要する」状況 | <input type="checkbox"/> 「努力を要する」状況 |

2 三次中学校区で目指している資質・能力

| 評価の観点 | 評価の観点 | 評価基準 | 具体的な評価 | 評価の観点 | | |
|-------|-------------|---|---|-------------|--------------|-----------|
| | | | | A「十分に満足できる」 | B「おおむね満足できる」 | C「努力を要する」 |
| 評価の観点 | コミュニケーション能力 | 自分の考えを持ち、他者の思いを受け止め、言葉で伝え合うことを通じて、互いを理解し、認め合える。 | ①「根拠をもとに、自分の考えを持っている」 ②「言葉で伝え、聞くことを通じて、相手を理解し、認め合えることができる」 | | | |
| | 協調性 | 目的と目標を共有し、目標達成のために、自らの役割を理解し、他者と協力できる。 | ③「自らの役割を理解している」 ④「他者(仲間、地域、社会)と協力している」 | | | |
| | 主体性 | 自らの夢と志を持ち、自ら行動し、新たな価値を生み出し、積極的に他者に貢献しようとする。 | ⑤「夢や志(企業面接における)志望理由を持っている」 ⑥「自ら行動し、積極的に他者に貢献しようとしている」 | | | |

3 面接を終えて(面接官より)

項目(①～⑥)ごとに評価(○つけ)をお願いします。

これは「見本」です。

生徒面接で使用するのは、当日、お配りします。

【面接評価シート(自己評価)】
 3年 組 番 生徒名 () 令和4年11月11日(金) 評価者 ()

1 公立高等学校入学者選抜で用いる評価表

面接評価シート(生徒)

| 評価の観点 | | |
|--|---|--|
| ア 自己を認識する力 | イ 自分の人生を選択する力 | ウ 表現する力 |
| 評価基準 | | |
| 自分が何が好きなのか、自分はどのような人間なのかなど、 <u>自分自身のことを認識することができている。</u> | 自分の考えや目標、自分がやりたいことなどについて、 <u>自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができている。</u> | 自分自身のこころや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、 <u>相手や聴衆に応じて、言葉の言い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができている。</u> |
| 評価及び評価の観点(該当する□に○) | | |
| 5点 <input type="checkbox"/> 「十分に満足できる」状況 | <input type="checkbox"/> 「十分に満足できる」状況 | <input type="checkbox"/> 「十分に満足できる」状況 |
| 4点 <input type="checkbox"/> 「おおむね満足できる」状況 | <input type="checkbox"/> 「おおむね満足できる」状況 | <input type="checkbox"/> 「おおむね満足できる」状況 |
| 3点 <input type="checkbox"/> 「努力を要する」状況 | <input type="checkbox"/> 「努力を要する」状況 | <input type="checkbox"/> 「努力を要する」状況 |

2 三次中学校区で目指している資質・能力

| 評価の観点 | 評価の観点 | 評価基準 | 具体的な評価 | 評価の観点(事前・事後) | |
|-------|-------------|---|---|--------------|----|
| | | | | 事前 | 事後 |
| 評価の観点 | コミュニケーション能力 | 自分の考えを持ち、他者の思いを受け止め、言葉で伝え合うことを通じて、互いを理解し、認め合える。 | ①「根拠をもとに、自分の考えを持っている」 ②「言葉で伝え、聞くことを通じて、相手を理解し、認め合えることができる」 | B | B |
| | 協調性 | 目的と目標を共有し、目標達成のために、自らの役割を理解し、他者と協力できる。 | ③「自らの役割を理解している」 ④「他者(仲間、地域、社会)と協力している」 | B | B |
| | 主体性 | 自らの夢と志を持ち、自ら行動し、新たな価値を生み出し、積極的に他者に貢献しようとする。 | ⑤「夢や志(企業面接における)志望理由を持っている」 ⑥「自ら行動し、積極的に他者に貢献しようとしている」 | A | A |

3 面接を終えて: 事前・事後(コメント) ※自分で不安に思っていること、気持ちを書き残そう!

| 【事前: 面接前】 緊張していました | 【事後: 面接後】 意外としらべろ | 【事後: 面接官の評価を受けて】 評価を受けて |
|--|---|---|
| 自分と比べて自信がなかったけれど、面接で自分の強みを知ることができたので、これから頑張りたいと思います。 | 面接官の質問が予想外だったので、臨機応変に対応することができたことに自信が持てました。 | 面接官の丁寧な質問と評価に感謝しています。面接官の言葉が心に響きました。面接官の言葉が心に響きました。 |

生徒は、評価項目の明確化、具体化を図り、「面接前」「面接後」「面接官の評価を受けて」の場面の自分を振り返りました。生徒は自分自身の変容を客観的に捉えることができました。



(7) 児童生徒のPDCA サイクル

Q 児童生徒は、PDCAサイクルをどのように回せばよいのだろうか。

ポイント

児童生徒は、「キャリア・ログ」を活用し、年度当初に身に付けたい力について確認する。そして、1年間でその力がついたかどうか、ルーブリックや振り返り表を用いて振り返りを行い、その振り返りをもとに改善したり、新たな課題を考えたりすることができるようにする。

児童生徒も学びを計画・実行・確認・改善していくことは大切です。ここでは「キャリア・ログ」を活用し、PDCAサイクルを回している取組例を紹介し、本中学校区の調査結果から児童生徒の変容を見ていきたいと思えます。

本中学校区では、「キャリア・ログ」を「自分の学びをふりかえったり、蓄積したりするもの」「自分の成長を感じるもの」として捉えています。

○河内小学校の取組例

(三次中学校区資質・能力系統表)



| | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校第1学年 | 中学校第2学年 | 中学校第3学年 |
|-----|--|---|--|--|---|---|
| 計画性 | ○自分の考えを、誰かに伝えることができる。 | ○自分の考えを持ち、自分の考えの強みや弱みの考えの強みを整理して、自分の考えを伝えることができる。 | ○自分の考えと他者の考えの強みや弱みを整理して、自分の考えを伝えることができる。 | ○自分の考えと他者の考えの強みや弱みを整理して、自分の考えを伝えることができる。 | ○課題に対する計画を持ち、他者の考えを参考にしながら自分の考えを整理して、自分の考えを伝えることができる。 | ○課題に対する計画を持ち、他者の考えを参考にしながら自分の考えを整理して、自分の考えを伝えることができる。 |
| 協働性 | ○一人で困難な難しい課題に対して、他者と協力して取り組むことができる。 | ○一人で困難な難しい課題に対して、他者と協力して取り組むことができる。 | ○一人で困難な難しい課題に対して、他者と協力して取り組むことができる。 | ○一人で困難な難しい課題に対して、他者と協力して取り組むことができる。 | ○一人で困難な難しい課題に対して、他者と協力して取り組むことができる。 | ○一人で困難な難しい課題に対して、他者と協力して取り組むことができる。 |
| 主体性 | ○自分の学習の中で、自分が取り組むべき課題が分かり、進んで取り組むことができる。 | ○自分の学習の中で、自分が取り組むべき課題が分かり、進んで取り組むことができる。 | ○自分の学習の中で、自分が取り組むべき課題が分かり、進んで取り組むことができる。 | ○自分の学習の中で、自分が取り組むべき課題が分かり、進んで取り組むことができる。 | ○自分の学習の中で、自分が取り組むべき課題が分かり、進んで取り組むことができる。 | ○自分の学習の中で、自分が取り組むべき課題が分かり、進んで取り組むことができる。 |

※1・・・友達：同じ学年・学年の児童生徒、学校生活において自分の親友で生活する人
 ※2・・・他者：学校生活だけでなく、地域住民等、社会で暮らす全ての人

児童と共有できる言葉で示す。

「3つの力（コミュニケーション能力・協働性・主体性）ルーブリック」

| 項目 | | できるといえる | できるといえる | できるといえない | できていない |
|-------------|--|---------|---------|----------|--------|
| コミュニケーション能力 | ① 友だちと話し合うとき、自分の考えとくちがわりながら、友だちの話を聞いている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ② 友だちと話し合うとき、自分の考えを言葉で伝えることができる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 協働性 | ③ 一人で解決が難しい問題を解決するために、友だちと協力している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ④ みんなで決めた目標を達成するために、自分の役割を果たそうとしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 主体性 | ⑤ 「やりたい自分」に向けて、目標を決め、積極的に取り組んでいる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑥ 自分で決めたことは、最後まであきらめずに取り組んでいる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 社会生活能力 | ⑦ 必ずしもいいことでも、失敗をおそれず、挑戦している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑧ 自分の思い通りの行事に参加している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑨ 将来の夢や目標を持っている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑩ 自分には、よいところがあると思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |



小学校 4年()組()番 名前()

4年生で身につけてほしい力とずが:

①友達がわかるように、自分の考えを伝えることができる。
②一人では解決(かいけつ)がむずかしい問題を友達と協力して解決
③自分で決めたことは、最後まであきらめずに取り組み。

4年生が終わったときこんな自分になりたい

広島の15歳の生とに身につけてもらいたい力

○自己をにんしきする力
自分は何が好きなのか、自分はどういう人間なのかなど、自分自身のことを理解することができる力のことす。

○自分の人生をせんたくする力
自分の夢や目ひよう、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、せんたくし、自分の意して決めることができる力のことす。

○奮げんする力
自分自身のことや自分の意見などを、相手に理かいしてもらえようように、相手や環境におうして、言葉の使い方やまげんの仕方などをくふうしながらつたえることができる力のことす。

1学期
こんな自分になりたい

2学期
こんな自分になりたい

3学期
こんな自分になりたい

1年間をふり返って
この1年でせいふしたとらうこと

1学期の自分をふり返りましよう

2学期の自分をふり返りましよう

3学期の自分をふり返りましよう

☆「キャリア・ログ」の記入にあたって

学年で身につけさせたい力の3つの観点を、1つずつ指導者が説明する。

【説明する際の留意点】

- ① 年度初めに全校朝会を行い、三次中学校区でつけたい力について、児童と共有した。その際、中学校卒業する時のゴールの姿を示し、小学生でつけておきたい力について「3つのカルーブリック表」を用いながら説明し、確認する。
- ② 「キャリア・ログ」の活用について、指導者は、担任しているクラスの実態をふまえ、「3つのカルーブリック表」の中から、「今年はこれを特にがんばってほしい」ということを「キャリア・ログ」【1】の中に書き込む。それを基に、①の全校朝会后、指導者は、「今年度特につけてほしい力(3つの観点から1つずつ)」を話す。
- ③ その後、児童は特にがんばりたいことを1つ選び、1年間の目標とする。(「4年生が終わったときにこんな自分になりたい」の欄【2】)その後、1学期の「こんな自分になりたい」【3】を記入する。
- ④ 1学期終わりに振り返り、2学期の目標を決める。2学期末にも振り返り、3学期の目標を立て、1年間の終わりにはその目標が達成できているのか振り返る。
- ⑤ 毎学期の振り返り後、指導者がコメントを書く。(担任外の先生がコメントを書くことも子どもの励みになるのではないかと考える。)あらゆる場面での評価があってもよい。

このようにキャリア・ログを活用することで、教育活動全体でつけたい資質・能力を意識し育てていくことができる。

D

【つけたい力をもとに、「できた度表」(授業でのループリック)を作成
「キャリア・ログ」の記入を踏まえ、日々の学校生活では「できた度表」
を活用しました。これは、それぞれの教科の単元で、「ここは資質・能力
の向上が期待できる。」(資質・能力の発揮・向上を見取ることができる)という授業
の終わりに書かせます。児童は、「できた度表」に色をぬることで、視覚的に自分が
どのくらい達成できているかについての振り返りができるので、自己を認識しやす
くなります。また、これから更にどんなところを伸ばしていかなければならないのか
を考える指標にもなります。授業では、次の学年でのステップアップするための記録
としてファイリングして残しています。

※河内小学校は複式学級であるため、上学年になった時に、昨年度のファイルを参
考にしたり、学習をブラッシュアップしたりするための手立てとして活用。

| 日にち | 3つの力 | 学習計画 | どこまでできた? | できた度 | ふりかえり |
|-----|---------------|-----------|--|------|-------|
| | 主体性 | 発表の準備をしよう | 1 友達からのアドバイスをもとに練習ができた。 2 友達の方を向いて、伝わりやすい声で発表練習ができた。 (声の大きさ、速さ、間に気を付けて) 3 友達と協力して発表練習ができた。 | | |
| | 協調性・コミュニケーション | 発表 | 1 伝わるように発表できた。(声の大きさ、速さ、間に気を付けて) 2 聞いてくれている人の方を向いて、発表ができた。 3 友達と協力して発表することができた。 | | |
| | 主体性 | ふりかえりをする。 | 1 河内のじまんを見つけ、発表できた。 2 河内のじまんを見つけ、友達にわかりやすく伝えることができた。 3 河内のじまんを見つけ、友達と協力しながらプレゼンテーションを活用し、発表することができた。 | | |

3年生は、来年さらにやってみたいことを書きましょう。4年生は、3年生にこうすると来年はもっとよくなるよ...というアドバイスを書きましょう。



C

【活動を振り返る】

| 学習計画 | どこまでできた? | できた度 | ふりかえり |
|---|--|------|---|
| 河内のじまんしらべ パート1 自分が知っているじ まんを書いて、みんな に伝える。 | 1 自分の考えをもてた。 2 その考えをわかりやすく友達に伝えることができた。 3 友だちと自分の意見をぐらべて聞き、つなげることができた。 | | 自分の考えを、友達に伝えることができてうれし かったです。 |
| 河内のじまんしらべ パート2 お家の人に聞いてき たじまんを友だちに 伝える。 | 1 お家の人の話を聞いて、じまんを見つけることができた。 2 お家の人の話をしつもんしたり、メモをとったりして聞いた。 3 お家の人の話をみんなにどのように伝えるかを考えながら聞いた。 | | お話を聞いて、じまんを見つけました。河内のじまんは、たくさんあるT おはあちゃんも、河内のじまんがたくさんあったから、すて めをしているんだと思いました。お家の人はよく知ってあんなに お話を聞いて、福ぜんぼうとさいぜんじのことを |
| 河内のじまんしらべ パート3 | 1 お話を聞いて、じまんを見つけることができた。 | | こんどうさんに、福ぜんぼうとさいぜんじのことを |

【できた度表(ループリック)に係って】

児童は記録を残し、次の学習へ繋げていく。これまでの記録をファイリング
し、児童の自己評価と授業の姿を照らし合わせ、「授業のねらいに達成している
か」等の評価を行う。さらに、子どもへの指導や助言、自身の授業改善や次年
度の活動に活かすことができる。



【特別活動の中での振り返り】

児童一人一人によって伸ばしたい力は違うので、伸ばしたい力を自分で選び、その力を意識しながら活動し、ふりかえりを行えるようにしました。記録をとることで、学期末のキャリア・ログ記入での手立てにもなります。

「キャリア・ログ」「できた度表」「ふりかえり」をもとに、今後の課題を見つけ、次年度に生かしていきます。そして、ブラッシュアップを図ります。次年度の目標は、「キャリア・ログ」で再び示されます。

「なりたい自分」プロジェクト

_____ がんばろう！！

年 _____ 名前 _____

月 _____ 日 _____

【がんばりたいことや楽しみなことを書きましょう。】

みなさんは、3つの方のどの方をのぼりたいですか？

コミュニケーション力 協調性 主体性

【わが】

【ふりかえり】

広島県の15歳の生とに身につけておいてもらいたい力

○自己をにんしきする力
自分は何が好きなか、自分はどのような人間なのかなど、自分自身のことを理解し、自分のことについて考えることができる力のことです。

○自分の人生をせんとくする力
自分の夢や目ひょう、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、せんとくし、自分の意思で決めることができる力のことです。

○表げんする力
自分自身のことや自分の意見などを、相手に理かいしてもらえらるるよう、相手や場面におうじて、言葉の使いかたや表げんする仕方などをくふうしながらつたえることができる力のことです。

3学期
こんな自分になりたい

発表をするときに、大きな声ではっきりと話したい。

3学期の自分をふり返りましょう

(学習面) よくできた道徳さんかんびに、大きな声で発表が出来たからです。

(生活) そうじの時間、係活動、クラブ活動、学校行事などで、手をあげて、大きな声ではっきりと話せたから。

(家や学校) きました。大きな声で話せるようになったから。

1年間を終えて、先生からのメッセージ

大きな声で発表することができたね！自分の意見をしっかりと伝えることができたね！

1年間をふり返って
この1年でせい長したと思うこと

大きな声ではっきりと発表すること(わが)
前より、手をあげて発表できたから。

自分のよいところや、とくなこと

地いさの人にやさしくするから。

こんな5年生、高学年になりたい

自分で気が付いたら、前より活動する5年生になりたいです。

家の人などからのメッセージ

学年最後の発表で、みんなの前で発表する姿に感動しました。スピーチカードの準備も、がんばって頑張ったこと、一生懸命に話を聞いてくれて、感謝しました。

「キャリア・ログ」には、学期末毎に指導者から、年度末に保護者から一言メッセージを書く欄があります。参観日等で児童の変容を感じた保護者から肯定的なメッセージをもらったことで、児童は「次年度はこんな力をつけたい！」と意欲を高めることができ、PDCAサイクルを回すことができます。

- (具体例)
- ①児童の思い
「コミュニケーション能力を高めたい。みんなの前で大きな声ではっきりと発表できるようになりたい。」
 - ②「キャリア・ログ」の目標に設定
 - ③授業では「できた度表」の活用、特別活動では「ふりかえり」を行いながら、目標をもって活動
 - ④毎学期の自己評価、指導者による評価
 - ⑤参観日等での児童の変容「積極的に発表できるようになる」
 - ⑥学期末の教職員、保護者のコメント
 - ⑦さらなる意欲の向上
 - ⑧次の学年での目標へ！

3 成果と課題について

① 3年間の経年変化【i-check 全国比(pt)による経年変化（中学校）】

【表1】



| 資質・能力 | 質問項目 | 令和3年7月 | 令和5年7月 | 変容 |
|-------------|--------------------------|-----------|-----------|-------|
| コミュニケーション能力 | 他者の意見を踏まえ、思いを伝える 他 | 【中1】 8.6 | 【中3】 57.8 | +9.2 |
| | | 【小6】 44.9 | 【中2】 48.8 | +3.9 |
| | | 【小5】 40.7 | 【中1】 46.2 | +5.5 |
| 主体性 | 最後まであきらめず判断行動 成功体験・自信 | 【中1】 78.2 | 【中3】 77.8 | ▲0.4 |
| | | 【小6】 73.0 | 【中2】 78.2 | +5.2 |
| | | 【小5】 68.5 | 【中1】 73.5 | +5.0 |
| 協調性 | 他者からの評価 友達の支え | 【中1】 52.6 | 【中3】 67.6 | +15.0 |
| | | 【小6】 43.2 | 【中2】 50.0 | +6.8 |
| | | 【小5】 39.7 | 【中1】 47.5 | +7.8 |

育てたい資質・能力について、同一集団による経年変化【表1】からは、着実にそれぞれの能力が向上してきていることが分かります。仲間との関わりと共にオリジナルカリキュラムの取組をはじめとしたコミュニティ・スクールを中心とした外部講師との関わりが大きいと感じました。コミュニティ・スクールを生かしたより組織的なキャリア教育の推進を通して、主体的な学びにつながる自己指導能力の育成につながったと考えます。

② 令和5年度総合質問紙調査（i-check）結果（三次中学校区）

総合質問紙調査（i-check）をもとに、令和5年度の7月と1月を比較し、目指す資質・能力を分析したものです。これらの調査結果から、3つの資質・能力において、前年度課題であった協調性の向上が見られるとともに、小学校では

| | | 7月 | 1月 | 増減 |
|-------------|---|-------|-------|-------|
| コミュニケーション能力 | 小 | 53.8% | 55.0% | 1.2% |
| | 中 | 50.9% | 47.6% | -3.3% |
| 協調性 | 小 | 52.3% | 56.8% | 4.5% |
| | 中 | 54.8% | 58.8% | 4.0% |
| 主体性 | 小 | 78.5% | 77.3% | -1.2% |
| | 中 | 76.9% | 70.0% | -6.9% |

コミュニケーション能力においても成果が表れる結果となりました。一方で、小学校中学校共に主体性、中学校においてはコミュニケーション能力に課題が見られました。特に、主体性としては「ものごとを最後まであきらめずにやりぬく」「次に何をすべきか自分なりに判断して行動する」、コミュニケーション能力としては、「学校生活の中で他の人が発言したり、発表したりするとき質問をしている」「他の人と同じ意見だった場合でも、自分なりに考えて発言している」の項目が低いことが分かりました。

③ キャリア教育担当者会議における協議内容

「第4回三次市キャリア教育推進協議会」において、各校の担当者よりデータに基づく児童生徒実態の分析を行いました。すると、各校の成果から、次のようなキーワードが挙げられました。

| 三次中学校 | 河内小学校 | 三次小学校 |
|--|---|---|
| <p>成果【主体性】における自己肯定感の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「向上心」には課題があるが、自己肯定感の高い傾向にあるため、<u>子ども・教師・地域のつながりを意識した取組</u>が効果的であった。 ・生徒はめあてに対しての振り返りを行うが、それに対する教師のコメントで意欲向上につながった。 ・<u>外部人材による生徒への肯定的評価</u>が生徒の達成感につながった。 | <p>成果【コミュニケーション能力】における発信力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複式学級であり、普段から相手意識をもち、<u>互いに受け入れ、安心できる土壌や雰囲気づくり</u>がある。 ・視点を明確にして発表させる。どういった発表が分かりやすいのかという<u>ポイントの共有、スキルの向上をもとに、自分なりの表現</u>をさせている。 | <p>成果【主体性】における成功体験や自信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「向上心」には課題があるが、「成功体験や自信」に関する項目は高い傾向にあるため、活動を仕組むとき、子どもたちの意見をできるだけ実現できる方向に連携し、<u>子どもたちが必然性を感じるような目的意識</u>をもたせた。 ・生徒は、<u>担任だけでなく、地域の方からも認められる</u>ことで達成感があった。 |

④ 今後に向けて

- ・今後も2小1中で連携し、コミュニティ・スクールを活用した取組の中で、地域の方とも協働し、共に児童生徒の成長を支えていく。
- ・引き続き、子どもたちに目的意識をもたせ、各教科等と他の教育活動のカリキュラムマネジメントをもとに、資質・能力を身に付けさせていく。
- ・主体性における「向上心」について、教師は手立てをしすぎるのではなく、生徒が失敗しながらも試行錯誤し解決しようとする姿に寄り添っていく。
- ・向上心をもつためには、自分に自信をもって取り組めるように、日々の授業の中で、「できた」「わかった」を人と比べるのではなく、「自分」を見つめ、成長を認められるように教師が見取り、肯定的評価を行う。
- ・子どもたちが身に付けた資質・能力を、自ら発揮できる活動を仕組んでいく。
- ・外部との事前連携を密にして、目的・身に付けさせたい資質・能力を共有する。

おわりに

本校区では、三次市を担う子どもを育成することの重要性についてメッセージを発信し、キャリア教育を社会全体で取り組むことが必要であることの機運を醸成しています。具体的には、毎月コミュニティ・スクール活動機関紙として「ともえ2040」を中学校区全2400戸に配布し、コミュニティ・スクールの皆さんの関わりが、地域の方、学校の役に立ち、子供たちの学びが豊かになっていることを伝えています。

「キャリア教育をどのように進めていけばいいのだろう…」という思いからスタートした取組でしたが、コミュニティ・スクールとして地域と学校が一体となり、持続可能な取組に進化しつつあると感じています。それは、学校と地域が共に「地域に貢献できる人材（児童生徒）の育成」を目指し、互いの意見や思いを大切にし合う関係が築けているからこそです。目指すゴール（中学3年生までにつけたい力）を明確化し、児童生徒の成長を見つめ、支え、励ましていくことで、「9年間を通した取組」がより充実したものになります。

本校区が指定を受けて、「児童生徒一人一人のキャリア形成と自己実現に向けて地域と共に取り組むことの大切さ」を実感し、「地域とのつながり」を通して「9年間の学校での学び」をより深めることができると確信しました。学校運営協議会委員の皆様には感謝しかありません。

この手引きを読まれている各校の皆様にとって参考となれば幸いです。読んでいただき、ありがとうございました。

ともえ 2040

発行：みよし学園コミュニティ・スクール
 (事務局：市立三次中学校)
 令和5年4月1日
 No. 37

生活科と総合的な学習の時間で育む力

＝「地域資源の活用と協働」による思考力と表現力の育成＝
～「グッドタウン三次」学習を通して～

目標：三次をすてきなまちにする、そのために自分たちのできることを考える。

三次中学校区では、小学校で生活科と総合的な学習の時間を中心に郷土学習を重ね、中学校では、三次の良いところや誇れるものを生かし、まちの魅力発信を通して地域に貢献する生き方について考えさせ、小中学校を通して「まちガイド育成プログラム」に取り組んでいます。今回は、この書卒業する三次中学校の3年生が、三次のまちづくりや活性化に取り組む人々の思いや願いを理解しようとして、フィールドワークなどで情報収集してきたことをまとめ、次に紹介する「ガイドブック」を作成しました。

| | 主な学習課題 |
|----|----------------------|
| 小1 | 三次の四季を楽しもう |
| 小2 | そだてよう自分の野菜 |
| 小3 | ふるさとほっけん三次探検隊 |
| 小4 | ふるさとほっけん つながる 三次！ |
| 小5 | ～ボランティアをしよう～ |
| 小6 | つながる 三次！ ～伝統文化を考えよう～ |
| 中1 | グッドタウン三次 |
| 中2 | まちづくり提言 |
| 中3 | みよしまちガイド |


【まちガイド育成プログラム】

三次の魅力の発信

中学生が三次の魅力を紹介する「ガイドブック」を作成しました 三次中学校

三次中学校では、3年生が校区の歴史・文化や自然など、多くの地域の魅力について、テーマを設定して、調査研究してまとめる取組をしています。今春の卒業生は、①ものけミュージアム、②イベント・祭り、③川・防災、④山・自然、⑤観光スポット、⑥三ツ刈アリススポットの6つのテーマを設定し、それぞれの魅力を中学生の視点からまとめて紹介するガイドブックを作りました。

ガイドブックは、紹介している場所に行かなくても、スマートフォンやタブレットなどを通して、魅力が伝わる写真を見ることができたり、生徒の声で説明を聞いたりすることができます。ものけミュージアムなどの市内・市外の観光スポットなどにガイドブックを置かせていただき、たくさんの人にこの三次の魅力を知ってもらいたいと考えています。三次ふれあい会館や河内コミュニティセンターにもガイドブックを置かせていただいています。地元の皆様には、是非、中学生が作ったガイドブックを手にとり取っていただき、どのようなものか見ていただき、ご意見やご感想をいただければ幸いです。今年度も地域の方々から新たな魅力を学び、小中学生がまとめたものを発信していきたいと考えています。引き続き、ご協力をお願いします。



みよしまちガイド